

2020 年度

情報公開

- 大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書
- 実務経験のある教員等による授業科目
- 客観的な指標の算出方法
- 卒業の認定に関する方針
- シラバス
- 学校関係者評価

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科	夜・通信	73 単位	9 単位	
		夜・通信			
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

入手方法：本校事務室への請求により一覧表の配布・閲覧可
ホームページにて公開 (www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公開 (www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
(備考) 2020年4月1日までに、複数の学外者である理事の選任を確実に実施する。			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 1. 当該年度の授業計画の校長・副校長・学科長・主任・各学年担任による確認・評価 2. 教科担当決定・シラバス執筆依頼 3. 原稿提出 4. 新年度授業計画（シラバス）の各学年担任による原稿の確認 5. 授業計画原案を校長・副校長・学科長・主任に報告・確認 6. 完成・公表（当該年度の開講前の 3 月中）	
授業計画書の公表方法	本校事務室への請求により印刷物の配布・閲覧可 ホームページにて公開 (www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html)

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

授業科目の評価については、シラバスに示している当該科目の「学生の到達目標」に基づいて、期末に試験を実施し評価する。学外における実習科目については、実習機関における評価を参考にして学校が評価に当たっている。

試験及び実習の評価は優(80点以上)・良(70点以上 80点未満)・可(60点以上 70点未満)・不可(60点未満)をもって表し、可以上を合格とする。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

公平性と透明性を確保し、統一した基準で、かつ国際的に通用する基準を用いるため、本校ではGPA (Grade Point Average) 制度を用いた成績評価を行います。修学指導や優秀な学生の表彰等に利用します。GPAは、以下の方法で算出します。

(a) GPAの対象となる授業科目

以下の適用除外科目以外の登録されたすべての授業科目をGPAの対象とします。

- ① 合格か不合格だけを判定する科目
- ② 編入学又は転入学した際の単位認定科目
- ③ 本学入学前に修得した単位認定科目
- ④ 他大学との単位互換等で修得した科目

(b) 成績評価の評定記号と付加するグレード・ポイント (GP)

成績評価は点数方式で行い、以下の評定記号 (優～可) の区分に応じたGPを算出します。

(c) GPAの算出方法

GPA値は、対象授業科目のうち、履修登録した科目について、それぞれの単位数にグレード・ポイント (4, 3, 2, 1, 0のいずれか) をかけ、その合計ポイント (GPS) を、それぞれの単位数の総和で割った数値です。

評価区分	評価記号	GP
100～90点	優	4
89～80点	優	3
79～70点	良	2
69～60点	可	1
59～0点	不可	0
単位認定	認定	なし

$$\frac{4.0 \times \text{「100～90点」の単位数} + 3.0 \times \text{「89～80点」の単位数} + 2.0 \times \text{「79～70点」の単位数} + 1.0 \times \text{「69～60点」の単位数}}{\text{受験済科目の総単位数(「不可」の単位数を含む)}}$$

*単位認定は、算出の対象としません。

*小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で、成績通知書に記載します。
成績証明書……成績証明書発行時点におけるGPA値

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ホームページにて公開
(www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 1. 豊かな人間性を養い、有能にして広く社会の要請に応え得る理学療法士をする」との本校の教育理念及び教育目標に基づき、3 年制専門学校としての特長を生かし、最短の年限で、リハビリテーション医療を担う専門職としての社会に質の高い理学療法士を養成する。 2. 理学療法士として必要不可欠な知識や専門的技術及び技能の修得を図るとともに、コミュニケーション能力や協調性などを培うなか、基本的な理学療法については独立して実施できることを到達目標とし、即戦力となる実践力ある人材を育成するとともに、高度・多様化する保健医療福祉分野を担う探求心と向上心を備えた人材を育成し、広く社会の医療・福祉に寄与できる人材を育成する。 【学則 第五節 第 27 条】 (卒業の認定) ① 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。 ② 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士(医療専門課程)の称号を付与する。 ③ 学校長は、卒業を認定した者に対し、本校所定の卒業証書を授与する。 ④ 本校を卒業した者には、「理学療法士国家試験」の受験資格が与えられる。 理学療法士及び作業療法士法並びに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、学則 第四節に定める教育課程（下記参照）における授業科目の単位を取得した者に対し、学則第五節卒業等並びに授業科目に関する規定に従い卒業を認定する。 【理学療法学科】 <table> <tr> <td>基 礎 分 野</td> <td>20 単位</td> </tr> <tr> <td>専門基礎分野</td> <td>31 単位</td> </tr> <tr> <td>専 門 分 野</td> <td>60 単位</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>111 単位</td> </tr> </table>		基 礎 分 野	20 単位	専門基礎分野	31 単位	専 門 分 野	60 単位	合 計	111 単位
基 礎 分 野	20 単位								
専門基礎分野	31 単位								
専 門 分 野	60 単位								
合 計	111 単位								
卒業の認定に関する 方針の公表方法	H31 学生便覧 (P. 6) 及びホームページにて公開 www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html								

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
収支計算書又は損益計算書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
財産目録	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
事業報告書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
監事による監査報告（書）	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科		○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
3 年	昼	3210/111 単位時間／単位	2025 時間		1185 時間				
			単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
120 人		104 人	0 人		8 人		38 人		46 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
1. 当該年度の授業計画の校長・副校長・学科長・主任・各学年担任による確認・評価 2. 教科担当決定・シラバス執筆依頼 3. 原稿提出 4. 新年度授業計画（シラバス）の各学年担任による原稿の確認 5. 授業計画原案を校長・副校長・学科長・主任に報告・確認 6. 完成・公表（当該年度の開講前の3月中）
成績評価の基準・方法
（概要）
授業科目の評価については、シラバスに示している当該科目の「学生の到達目標」に基づいて、期末に試験を実施し評価する。学外における実習科目については、実習機関における評価を参考に学校が評価に当たっている。 試験及び実習の評価は優(80点以上)・良(70点以上80点未満)・可(60点以上70点未満)・不可(60点未満)をもって表し、可以上を合格とする。

卒業・進級の認定基準
(概要) 理学療法士及び作業療法士法並びに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、学則 第四節に定める教育課程(理学療法学科にあつては基礎分野20単位、専門基礎分野31単位、専門分野60単位：合計111単位)における授業科目の単位を取得した者に対し、学則 第五節卒業等並びに授業科目に関する規定に従い卒業を認定する。
学修支援等
(概要) 前期・後期に実施している学生面談により、生活状況・学習状況を把握した上で指導している。 前学年を通じて、カリキュラム外で国家試験対策を講じている。 一年生：学習習慣の確立（早朝テスト、課題提出期限のチェック等） 二年生：臨床実習を想定した対策（実技を中心に） 三年生：国家試験対策、臨床に出る直前に備えておくべき理学療法士として心構え・知識・技術を提示している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (%)	12人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 奈良県・大阪府の病院			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修の受講・就職先施設の紹介・模擬面接・履歴書添削			
(主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士国家試験受験資格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
94人	4人	5.3%
(中途退学の主な理由) 学業への不安・志望動機の変化による進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 保護者を含めた面談やカウンセリング		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
理学療法 学科	300,000 円	760,000 円	500,000 円	※その他の内訳 施設設備充実費 200,000 円 実習教材費 300,000 円
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
● 特別学費支援制度 (留年生が継続的に登校して勉学に励むことを条件に、後期の学費を減免する制度) ● 家族割引制度 (二親等以内の親族が関連校を卒業、もしくは在学している場合、入学金の一部を免除する制度)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
ホームページにて公開 www.nara-reha.ac.jp/pdf/jikot-h30.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、学外関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。 ○主な評価項目：教育、施設、学生サービスなど。 ○評価委員の定数：5名以上 ○評価委員の選出区分：卒業生、企業関係者、高校関係者、地域住民、教育関連有識者など ○評価結果の活用方法：学校運営等の改善に活用する。評価結果ならびに改善策の公表については4月を目途にホームページ (www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html) で公表予定。また学校関係者評価の責任者は学校関係者評価委員会の委員長とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校関係者評価を確実に実施し、2020年度よりその結果を公表する。		
学校関係者評価結果の公表方法		
2020年度から評価を確実に公表する。		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) www.nara-reha.ac.jp
--

実務経験のある教員等による授業科目一覧表(理学療法学科)

分野	科目	実務教員 科目	指定 単位数	実施時間			1学年		2学年		3学年	
				講義 演習	実験 実習 実技	単位数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							時間	時間	時間	時間	時間	時間
基礎分野	教 育 学	○	(教育内容)	30		1	30					
	生 化 学	○		30		1	30					
	統 計 学	○		30		2		30				
	英 語 I	○		30		1	30					
	英 語 II	○		30		2		30				
	基礎分野計		14単位	150H		7単位	90H	60H				
専門基礎分野	解 剖 学 I	○	人体の構造 と機能及び 心身の発達	120		4	60	60				
	解 剖 学 II	○		60		2	30	30				
	生 理 学 I	○		60		2	60					
	基 礎 運 動 学 I	○		60		2		60				
	基 礎 運 動 学 II	○		60		2			60			
	人 間 発 達 学	○		15		1	15					
	小 計		12単位	375H		13単位	75H	60H	60H			
	医 学 概 論	○	疾病と障が いの成り立 ち及び回復 過程の促進	15		1		15				
	内 科 学	○		60		2			30	30		
	神 経 科 学	○		45		2			30	15		
	臨 床 医 学 II	○		15		1				15		
	整 形 外 科 学	○		60		2			30	30		
	精 神 医 学	○		30		1			30			
	小 児 科 学	○		15		1			15			
	臨 床 心 理 学	○		30		1			30			
	小 計		12単位	270H		11単位		15H	165H	90H		
	リハビリテーション I	○	(教育内容) 保健医療福祉 とリハビリ テーションの 理念	30		1		15				
	リハビリテーション II	○		15		1				15		
	保 健 医 療 福 祉 関 係 論	○		45		2					15	30
	小 計		2単位	90H		4単位		15H		15H	15H	30H
	専門基礎分野計		26単位	735H		28単位	75H	90H	225H	105H	15H	30H

実務経験のある教員等による授業科目一覧表(理学療法学科)

分野	科目	実務教員 科目	指定 単位数	実施時間			1学年		2学年		3学年	
				講義 演習	実験 実習 実技	単位数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							時間	時間	時間	時間	時間	時間
専門分野	理 学 療 法 概 論	○	(教育内容) 基礎理学療法学	30		2	30					
	臨 床 運 動 学	○		60		2			30	30		
	理 学 療 法 障 害 学Ⅰ	○		15		1		15				
	理 学 療 法 障 害 学Ⅱ	○		45		1					30	15
	小 計		6単位	150H		6単位	30H	15H	30H	30H	30H	15H
	理学療法評価総論Ⅰ	○	(教育内容) 理学療法評価学		60	2		60				
	理学療法評価総論Ⅱ	○			60	2			60			
	理学療法評価各論Ⅰ	○			30	1			30			
	理学療法評価各論Ⅱ	○			30	1				30		
	理学療法評価演習	○		30		1				30		
	動作分析学Ⅰ	○		30		1			30			
	動作分析学Ⅱ	○		30		1					30	
	小 計		5単位		180H	9単位		60H	90H	30H		
	基礎運動療法学	○	(教育内容) 理学療法治療学		75	3	30	30				
	運動療法学Ⅰ	○		30		1		30				
	運動療法学Ⅱ	○			60	2		60				
	運動療法学Ⅲ	○			30	1			30			
	物理療法学Ⅰ	○		30		1			30			
	物理療法学Ⅱ	○		30		1				30		
	義 肢 学	○		45		2				45		
	装 具 学	○		30		1				30		
	日常生活活動学総論	○		30		1			30			
	日常生活活動学各論	○		30		1				30		
	理学療法治療各論Ⅰ	○		30		1			30			
	理学療法治療各論Ⅱ	○		30		1				30		
	理学療法治療各論Ⅲ	○		30		1			30			
	理学療法治療各論Ⅳ	○		30		1			30			
	理学療法治療各論Ⅴ	○		30		1				30		
	理学療法治療各論Ⅵ	○		45		2				30		
	理学療法治療各論Ⅶ	○		30		1					30	
	理学療法治療各論Ⅷ	○		30		1				30		
	理学療法治療演習	○		30		1				30		
	小 計		20単位	510H	165H	24単位	30H	120H	180H	285H	30H	
	生 活 環 境 論	○	(教育内容) 地域理学療法学	30		1				60		
	地 域 理 学 療 法 学	○		30		1					30	
	地域サービス技術論	○		30		1					30	
	小 計		4単位	90H		3単位				60H	60H	
	専門分野計		53単位	750H	345H	42単位	60H	195H	300H	405H	120H	15H
	合計			1635H	345H	77単位	225H	345H	525H	510H	135H	45H

○令和元年度

客観的な指標の算出方法

当該年度に進級し、当該学年で履修すべき全科目を履修した者を算出対象とした(留年生は算出対象外)
履修科目の成績評定を点数化し、全科目のGPAを算出した(4点満点で点数化)

学科名	理学療法学科	学年	1	学生数	17
成績の分布					
指標の数値		0以上～1未満	1以上～2未満	2以上～3未満	3以上～4以下
人数			8	7	2
下位1/4に該当する人数 4人					
下位1/4に該当する指標の数値 1.61以下					

学科名	理学療法学科	学年	2	学生数	18
成績の分布					
指標の数値		0以上～1未満	1以上～2未満	2以上～3未満	3以上～4以下
人数			5	13	
下位1/4に該当する人数 4人					
下位1/4に該当する指標の数値 1.9以下					

学科名	理学療法学科	学年	3	学生数	18
成績の分布					
指標の数値		0以上～1未満	1以上～2未満	2以上～3未満	3以上～4以下
人数				14	4
下位1/4に該当する人数 4人					
下位1/4に該当する指標の数値 2.3以下					

卒業の認定に関する方針について

本校のディプロマポリシー

1. 「豊かな人間性を養い、有能にして広く社会の要請に応え得る理学療法士を養成する」との本校の教育理念及び教育目標に基づき、3年制専門学校としての特長を生かし、最短の年限で、リハビリテーション医療を担う専門職としての社会に質の高い理学療法士を養成する。

2. 理学療法士として必要不可欠な知識や専門的技術及び技能の修得を図るとともに、コミュニケーション能力や協調性などを培うなか、基本的な理学療法については独立して実施できることを到達目標とし、即戦力となる実践力ある人材を育成するとともに、高度・多様化する保健医療福祉分野を担う探求心と向上心を備えた人材を育成し、広く社会の医療・福祉に寄与できる人材を育成する。

卒業の認定について

【学則 第五節 第27条】

- ① 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。
- ② 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士(医療専門課程)の称号を付与する。
- ③ 学校長は、卒業を認定した者に対し、本校所定の卒業証書を授与する。
- ④ 本校を卒業した者には、「理学療法士国家試験」の受験資格が与えられる。

理学療法士及び作業療法士法並びに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、学則 第四節に定める教育課程（下記参照）における授業科目の単位を取得した者に対し、学則第五節卒業等並びに授業科目に関する規定に従い卒業を認定する。

【理学療法学科】

基 礎 分 野	14 単位
専門基礎分野	34 単位
専 門 分 野	69 単位
合 計	117 単位

以上

令和 2 年度

講義シラバス

奈良リハビリテーション専門学校



目次

【基礎分野】

教育学	 1
心理学	 2
生化学	 3
物理学	 4
統計学	 5
情報処理	 6
人間工学	 7
英語Ⅰ	 8
英語Ⅱ	 9
保健体育	 10
コミュニケーション学	 11

【専門基礎分野】

※解剖学Ⅰ	 13
※解剖学Ⅱ	 15
生理学Ⅰ	 17
生理学Ⅱ	 18
基礎運動学Ⅰ	 21
基礎運動学Ⅱ	 22
人間発達学	 23
病理学	 24
医学概論	 25
※内科学	 26
※神経科学	 27
※整形外科	 29
精神医学	 30
小児科学	 31
臨床心理学	 32
臨床医学Ⅰ	 33
臨床医学Ⅱ	 34
臨床医学Ⅲ	 35
リハビリテーションⅠ	 36
リハビリテーションⅡ	 37
※保健医療福祉関係論	 38

【専門分野】

理学療法概論	 39
※臨床運動学	 40
理学療法障害学Ⅰ	 41
※理学療法障害学Ⅱ	 42
理学療法研究概論	 43
※理学療法管理学	 44
理学療法評価総論Ⅰ	 45
理学療法評価総論Ⅱ	 47
理学療法評価各論Ⅰ	 48
理学療法評価各論Ⅱ	 49
理学療法評価演習	 50
動作分析学Ⅰ	 51
動作分析学Ⅱ	 52
※基礎運動療法学	 53
運動療法学Ⅰ	 55
運動療法学Ⅱ	 56
運動療法学Ⅲ	 57
物理療法学Ⅰ	 58
物理療法学Ⅱ	 59
義肢学	 60
装具学	 61
日常生活活動学総論	 62
日常生活活動学各論	 63
理学療法治療各論Ⅰ	 64
理学療法治療各論Ⅱ	 65
理学療法治療各論Ⅲ	 66
理学療法治療各論Ⅳ	 67
理学療法治療各論Ⅴ	 68
理学療法治療各論Ⅵ	 69
理学療法治療各論Ⅶ	 70
理学療法治療各論Ⅷ	 71
理学療法治療演習	 72
生活環境論	 73
地域理学療法学	 74
地域サービス技術論	 75
見学実習	 76
※評価実習	 77
※総合臨床実習	 78
卒業課題	 79

※:通期科目

【科目名】

教育学

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	浅岡 雅子	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

現在の教育問題や動向について学ぶとともに、理学療法士の患者指導という観点から教育観を探究する。

①教育観を理学療法士の視点で述べることができる

②理学療法と患者教育の関係性を説明ができる

回数	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	プレゼンテーションについて、文章を書く(自己分析)	
3	人間の成長と発達と教育 I	
4	人間の成長と発達と教育 II、グループワーク	
5	コーチングスキルについて	
6	コーチングスキル I、聴くこと	
7	コーチングスキル II、質問すること	
8	プレゼンテーション、話し合い	
9	コーチングスキル III	
10	障害と特別支援教育	
11	生涯学習時代と成人教育	
12	グループ発表、学習指導 I	
13	グループ発表、学習指導 II	
14	グループ発表、学習指導 II	
15	グループ発表、まとめ	

【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験

<基準>素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

心理学

令和2年度

実務教員科目

分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	1
担当	小野 由莉花	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

医療人として患者の苦しみや悩みを理解することは重要である。こころのはたらきを科学的に探究し、理学療法に必要な心理学の基本的事項を学習する。

- ①対人援助に必要な心理学的技法を説明できる
- ②心理学的側面から見た学習の成立について説明できる
- ③ライフステージごとの心理的発達の特徴を説明できる

回数	講義内容	備考
1	心理学とは、心理学と対人援助、リハビリテーションについて	
2	感覚と知覚、もののとらえ方のしくみを知る	
3	認知1、記憶のメカニズム、記憶障害	
4	認知2、言語・思考のメカニズム、言語障害	
5	学習1、生得的行動と習得的行動、古典的条件付け	
6	学習2、オペラント条件づけ、社会的学習	
7	動機づけ、生理的動機と社会的動機	
8	感情、感情のメカニズム、感情の理論、感情のシグナル	
9	パーソナリティ、類型論と特性論、知能	
10	発達1、乳幼児・児童期、発達障害	
11	発達2、青年期から老人期、認知症	
12	社会と集団、対人知覚、コミュニケーション、対人関係、集団とリーダーシップ	
13	健康1、ストレスとは、患者の心理、医療職の心理	
14	健康2、ストレスとつきあう、ストレス・マネジメント・バーンアウト	
15	臨床心理学、心理療法とカウンセリング、精神分析、行動療法、認知療法	

【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

生化学

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	宮岡 朋子	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

エネルギー産生機構や糖質・脂質・蛋白質代謝、血液性状の変化等の基礎的な生化学の知識を学習する。

①エネルギー機構について生化学的に説明できる

②代謝性疾患と代謝異常について説明できる

回数	講義内容	備考
1	生化学を学ぶための基礎知識 I	
2	生化学を学ぶための基礎知識 II	
3	糖質	
4	脂質・タンパク質	
5	代謝の概要	
6	酵素・補酵素	
7	糖代謝	
8	脂質代謝	
9	タンパク質代謝	
10	ポルフィリン質代謝と異物代謝	
11	遺伝子と核酸・核酸代謝	
12	DNA 抽出	
13	遺伝子の複製・転写・翻訳	
14	シグナル伝達	
15	まとめ	

【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験

<基準>素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
系統看護学講座 専門基礎 2 人体の構造と機能 2 生化学 第 14 版	畠山鎮次	医学書院

【科目名】

物理学

令和 2 年度

実務教員科目

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	大又 巧也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

熱、力学、光、音など理学療法に必要な物理的知識を学習する。

①理学療法に应用される物理的エネルギーについて説明できる

②身体運動に適応される物理的法則について説明できる

回数	講義内容	備考
1	物理量とその表し方	
2	物理学で使うグラフと関数	
3	いろいろな運動	
4	さまざまな力	
5	力のつり合いと運動の法則	
6	物体の重心と回転運動	
7	運動量、仕事とエネルギー	
8	温度と熱	
9	波の運動	
10	音と光	
11	電気と力	
12	電流と抵抗	
13	磁気と電流	
14	原子の構造と放射線	
15	復習と演習	

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
PT・OT ゼロからの物理学		羊土社

【科目名】

統計学

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	治部 哲也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

医療に必要な有意差検定や相関分析等の統計手法を学習する。

①統計用語について説明できる

②代表的な統計手法(平均値の差の検定、相関など)の結果の読み方について説明できる

③サンプルサイズについて説明できる

回数	講義内容	備考
1	統計学のスタート、データの種類と尺度、データの収集	
2	統計処理の実際	
3	集団の特徴をとらえる	
4	PC を使用した代表値の算出、集団の特徴を分布曲線で表す	
5	正規分布における個々のデータの位置を知る、正規分布の基準化(応用)、推測統計学(母集団と標本)	
6	推測統計学(標本平均の分布)、統計的仮説検定 1-①	
7	統計的仮説検定 1-②	
8	区間推定法①	
9	区間推定法②	
10	PC を使用した対応のない2つの平均の差の検定	
11	統計的仮説検定 2-②	
12	PC を使用した対応のある2つの平均の差の検定	
13	質的データの分析①	
14	2つの変数の関係を調べる	
15	研究の流れに沿った分析の実践、まとめ	

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
15 レクチャーシリーズ リハビリテーション統計学	石川 朗	中山書店

【科目名】

情報処理

令和 2 年度

実務教員科目

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	大又 巧也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

基本的な PC 操作や表計算等の使い方を演習形式で学習する。

- ①PC を使い文章を作成できる
- ②PC を使い表計算ができる
- ③PC を使いパワーポイントで発表ができる

回数	講義内容	備考
1	コンピュータの基本操作、文章入力	
2	Word①、文章入力とページ設定	
3	Word②、文字書式と段落書式	
4	Word③、ビジネス文書の作成	
5	Word④、グラフィカルな文章の作成	
6	Word⑤、レポートの作成	
7	Power point①、基本的なスライドの作成	
8	Power point②、見栄えの良いスライドの作成	
9	Excel①、数式を使った表作成	
10	Excel②、関数を使った表作成(1)	
11	Excel③、関数を使った表作成(2)	
12	Excel④、グラフ作成	
13	PowerPoint③、グループ発表	
14	PowerPoint④、グループ発表	
15	総合的な演習課題	

【成績評価方法】

<内容>①実技試験

<基準>素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
医療従事者のための情報リテラシー 第2班	森由紀・中村健壽	日経 BP 社

【科目名】

人間工学

令和 2 年度

実務教員科目

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	上田 秀治	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

人間をとりまく環境において道具や建築物がどのように使い勝手良く設計されているのかを学び、人間の身体的・心理的特性に応じた、安全で快適な生活について学習する。

- ①人間の快適な姿勢や動作を工学的な視点で説明できる
- ②ユニバーサルデザインについて説明できる
- ③ユニバーサルデザインに関する法制度について説明できる

回数	講義内容	備考
1	人間工学とは	
2	人体の特性と人間工学①:人体の寸法と特性	
3	人体の特性と人間工学②:人体の寸法の計測	
4	人間の重心①:座標を用いた重心位置の決定	
5	人間の重心②:簡易人体モデルを用いた重心位置の算出	
6	人間の重心③:各体分節の重心決定と身体全体の重心位置の算出	
7	支持基底面と重心	
8	人間の知覚①:色と身体機能	
9	人間の知覚②:温熱環境と身体機能	
10	人間の知覚③:生活環境音と身体機能	
11	人間の知覚④:ヒューマンエラーと対策	
12	ユニバーサルデザイン①:バリアフリーとユニバーサルデザイン	
13	ユニバーサルデザイン②:日常生活におけるユニバーサルデザイン	
14	ユニバーサルデザイン③:医療におけるユニバーサルデザイン	
15	ユニバーサルデザイン④:ディスカッション	

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験【定規の準備】

<基準>素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

英語 I

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	下田 一次	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

一般教養および専門領域の理解に必要となる基礎的な語学力を身につけられるように学習する。

①英語を用いた基礎的なコミュニケーションをとることができる

②医学英論文を読むための前段階として、基礎的な英文書を読むことができる

回数	講義内容	備考
1	英語一般について、英語と日本語、言語について、プリント 1～4	
2	Unit1: 基本コミュニケーション、プリント教材 5	
3	Unit1: 励ましの表現、プリント教材 5	
4	Unit2: プリント教材 5・6	
5	Unit2: プリント教材 6・7	
6	Unit3: プリント教材 7	
7	Unit3: プリント教材 8	
8	Unit4: 道順、プリント教材 9・10、短母音	
9	Unit4	
10	Unit5: 入浴、プリント教材 11・12、ワードサーチ	
11	Unit5: プリント教材 15・13、カタカナ略語、	
12	Unit6: プリント教材 16、欧文略語	
13	Unit7: プリント教材 16、欧文略語	
14	Unit7	
15	Unit7: プリント教材 17～19、ギリシャ神話の神	

【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験【持ち込み可能なもの: 紙の辞書(電子辞書は不可)】

<基準>素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
介護・看護・リハビリ マナーとホスピタリティの英語 III	古閑博美 他	弓プレス

【科目名】

英語Ⅱ

令和2年度

						令和2年度	
						実務教員科目	○
分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	2
担当	下田一次、小林功	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

医学英語や用語を理解し、英文文献の読解力を身につけられるように学習する。

①医学英論文の渉猟方法を説明できる

②医学英論文の要点を説明できる

回数	講義内容	備考
1	UNIT8:プリント20、基本動作、前置詞+再帰代名詞	下田
2	UNIT9:プリント21、看護・介護の方針と説明、It...of ④ to～	下田
3	UNIT9・10:予防リハビリ	下田
4	UNIT10:Exercise ABCDE、プリント22、one と it	下田
5	UNIT11:Exercise F～Exercise A、プリント23、進行形	下田
6	UNIT11:ABCDEF (Exercise)、プリント24、色彩から派生した語	下田
7	UNIT12:本文 Exercise ABC プリント24・25 色彩から派生した語	下田
8	UNIT12:プリント25～27 Exercise DF	下田
9	UNIT13:プリント28～31 Exercise ABC、used to～、ギリシャ語アルファベット	下田
10	UNIT13:プリント32～34 Exercise DEF、毒	下田
11	Life-Science dictionary の使い方、PubMed/Google scholar の使い方、abstract を読む、論文の構成	小林
12	Introduction の構成	小林
13	Methods の構成	小林
14	Results の構成	小林
15	Discussion の構成	小林

【成績評価方法】

<内容> ①下田講師分:筆記試験【持ち込み可能なもの:紙の辞書(電子辞書は不可)】

②小林教員分:レポート

<基準> 試験は担当ごとに実施し、それぞれ6割以上で単位修得。評定割合は下田講師6割、小林教員4割。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
介護・看護・リハビリ マナーとホスピタリティの英語 Ⅲ	古閑博美・土谷宣子・北川宣子	弓プレス

【科目名】

保健体育

令和 2 年度

実務教員科目

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	山口典孝、森山琢磨	時間数	30	回数	15	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

スポーツを通じて、健康と体育を科学的に捉えることを学ぶ。

①運動が健康に与える影響について説明することができる

②各種スポーツの障害特性とその予防について述べることができる

回数	講義内容	備考
1	オリエンテーション：自己紹介、ショートテニス	森山先生
2	ドッチボール：準備体操、ドッチボール	山口先生
3	バレーボール：バレーボール	森山先生
4	バレーボール：ランニング、準備体操、バレーボール	森山先生
5	バレーボール：ランニング、準備体操、バレーボール、フットサル	山口先生
6	バスケットボール：ランニング、準備体操、バスケットボール	森山先生
7	バスケットボール：ランニング、準備体操、バスケットボール	森山先生
8	バスケットボール：ランニング、準備体操、バスケットボール	森山先生
9	バスケットボール：ランニング、準備体操、バスケットボール	森山先生
10	バレーボール：ランニング、準備体操、バレーボール	山口先生
11	サッカー：ランニング、準備体操、サッカー	森山先生
12	フットサル：ランニング、準備体操、フットサル	森山先生
13	スポーツ栄養学	森山先生
14	バレーボール：ランニング、準備体操、バレーボール、ドッチボール	山口先生
15	サッカー、ドッチボール：ランニング、準備体操、サッカー、ドッチボール、バスケットボール	山口先生

【成績評価方法】

<内容>①平常点②出席点③実技試験

<基準>①～③合算を素点とし、その 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
なし		

【科目名】

コミュニケーション学

令和2年度

実務教員科目

分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	2
担当	宮崎尚也、太田むつ子 森川あやこ	時間数	30/45	回数	15/23	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

言語的又は非言語的な手段により、良好な対人関係を築くことができるよう学習する。

①良好なコミュニケーションについて説明できる

②基礎的な医療面接を実施することができる

回数	講義内容	備考
1	コミュニケーション学 総論	宮崎
2	コミュニケーションスキル 心をつなぎ・絆を結ぶコミュニケーション	森川
3	交流（お互いを知る、つながる 10 箇条）	太田
4	自分を知る	宮崎
5	話し方、文章読解	太田
6	相手を知る	宮崎
7	合意形成と協働	宮崎
8	伝える力①「言語情報」	宮崎
9	伝える力②「非言語情報」	宮崎
10	きく力①	宮崎
11	きく力②	宮崎
12	医療面接総論	宮崎
13	医療面接演習①	宮崎
14	医療面接演習②	宮崎
15	チームで問題解決	宮崎

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験②実技試験

<基準>合算した素点が6割以上で、かつコミュニケーション学(手話)の素点も6割以上で単位修得。評定は両方の素点の平均。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

コミュニケーション学

令和2年度

実務教員科目

分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	2
担当	布上 佳世	時間数	15/45	回数	8/23	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

言語的又は非言語的な手段により、良好な対人関係を築くことができるよう学習する。

①手話で自己紹介が実施できる

②手話で基礎的なコミュニケーションをとることができる

回数	講義内容	備考
1	手話の基礎知識 実技：身振り、指文字	
2	聴覚障がい者のコミュニケーションについて 実技：自己紹介、数字	
3	ろう教育の歴史とろうあ運動の流れ 実技：あいさつ、会話	
4	ろう者の講演 「聴覚障がい者の生活」	
5	聴覚障がい者の基礎知識 実技：会話	
6	聴覚障がい者への合理的配慮 実技：会話	
7	手話通訳派遣制度	
8	聞こえない人と交流してみましょう（5名）	

【成績評価方法】

<内容> ①平常点②実技試験

<基準> 合算した素点が6割以上で、かつコミュニケーション学の素点も6割以上で単位修得。評定は両方の素点の平均。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
手話を学ぼう 手話で話そう	社会福祉法人全国手話研修センター	

【科目名】

解剖学Ⅰ（前期）

令和2年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	通期	単位数	4
担当	早崎 華	時間数	60/120	回数	30/60	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

骨関節系、筋系、神経系などについて系統解剖学的に人体の構造、各器官及び組織の形態を学習する。

①骨の構造と機能について説明できる

②関節の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	解剖学総論	16	下肢の骨（寛骨）と骨盤
2	骨学総論①	17	下肢の骨（大腿骨と膝蓋骨）
3	骨学総論②	18	下肢の骨（下腿骨と足の骨）
4	骨格全体の観察	19	下肢の関節①
5	脊柱①	20	下肢の関節②
6	脊柱②	21	筋学総論①
7	脊柱③	22	筋学総論②
8	胸郭の骨	23	神経総論①
9	関節総論	24	神経総論②
10	脊柱と胸郭の関節①	25	骨格筋と末梢神経
11	脊柱と胸郭の関節②	26	腕神経叢
12	上肢の骨（肩甲骨・上腕骨）	27	上肢帯から上腕骨への筋
13	上肢の骨（前腕骨・手の骨）	28	上腕の筋
14	上肢の関節①	29	前腕前面の筋
15	上肢の関節②	30	前腕後面の筋

【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験

<基準>前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。評定は前後期の平均。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
PT・OT・STのための解剖学	渡辺正仁	廣川書店

【科目名】

解剖学 I (後期)

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1 年	開講期間	通期	単位数	4
担当	早崎 華	時間数	60/120	回数	30/60	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

骨関節系、筋系、神経系などについて系統解剖学的に人体の構造、各器官及び組織の形態を学習する。

①骨格筋の構造と機能について説明できる

②神経(末梢・中枢神経系)の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
31	手の筋	46	間脳①
32	体幹から上肢への筋	47	間脳②
33	腰神経叢・仙骨神経叢	48	脳幹①
34	下肢(外旋六筋と殿部の筋)	49	脳幹②
35	下肢(大腿の筋)	50	小脳と辺縁系
36	下肢(下腿の筋と足の筋)	51	神経の伝導路
37	固有背筋	52	神経の伝導路(上行性伝導路)
38	腹部の筋と胸郭の筋	53	神経の伝導路(下降性伝導路)
39	頸神経叢と頸部の筋	54	脳神経①
40	頸神経叢と頸部の筋	55	脳神経②
41	脳の分類と大脳①	56	顔面の筋肉
42	脳の分類と大脳②	57	脳神経③
43	脳の発生と髄膜と脳脊髄液	58	頭蓋骨①
44	脳の血管①	59	頭蓋骨②
45	脳の血管②	60	まとめ

【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験

<基準>前後期共に素点が 6 割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果 6 割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して 120 点以上あれば単位修得。評定は前後期の平均。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
PT・OT・ST のための解剖学	渡辺正仁	廣川書店

【科目名】

解剖学Ⅱ（前期）

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1 年	開講期間	通期	単位数	2
担当	前田 裕子	時間数	30/60	回数	15/30	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

循環器系・リンパ系・消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・感覚器系などについて系統解剖学的に人体の構造、各器官及び組織の形態を学習する。

①循環器（心臓・血管など）の構造と機能について説明できる

②消化器（胃・腸・肝臓など）の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1	驚異の人体機能：DVD を見て体全体の造りを見る	
2	細胞構造：人体の区分～細胞の構造（～細胞膜）	
3	組織：細胞分裂、上皮・結合組織	
4	心臓：総論（軟骨・筋） 心臓の構造（～弁）	
5	心臓・血管：冠状循環、心膜、刺激伝導系、血管（動脈弓）	
6	動脈：脳、上肢、胸部、腹部の動脈	
7	動脈・静脈：腹大動脈壁側枝～ 脳の静脈	
8	静脈・胎児の循環：上肢の静脈～下肢の静脈、胎児の静脈	
9	リンパ系・消化器系：リンパ組織、中空器官、口腔	
10	呼吸器系①：鼻、喉頭、気管	
11	呼吸器系②：肺、胸膜、縦隔	
12	消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭	
13	消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸	
14	消化器系③：小腸、大腸	
15	消化器系④：肝臓、膵臓、胆道	

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>前後期共に素点が 6 割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果 6 割以下であった場合、前期本試験と比較して良い方の素点を採用し、その点と後期本試験の素点を合算して 120 点以上あれば単位修得。評価は前後期の平均。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
日本人体解剖学 上巻・下巻	金子丑之介	南山堂
ネッター解剖学アトラス	相磯貞和	南江堂

【科目名】

解剖学Ⅱ（後期）

令和2年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	通期	単位数	2
担当	前田 裕子	時間数	30/60	回数	15/30	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

循環器系・リンパ系・消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・感覚器系などについて系統解剖学的に人体の構造、各器官及び組織の形態を学習する。

①呼吸器（気管支・肺など）の構造と機能について説明できる

②その他の内臓器（内分泌器・泌尿器・生殖器・感覚器）の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1	腹膜、腎の位置（皮質・髄質）	
2	泌尿器：腎小体、尿細管、血管、血圧・水の調整	
3	泌尿器：PHの調整・ビタミンDの活性化、尿管、膀胱、排尿機構	
4	泌尿器・男子生殖器 尿道、精子の発生まで	
5	男性生殖器：精巣上体、精巣被膜、付属器官、陰茎	
6	女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体	
7	女性生殖器：卵管、子宮、月経周期、膣、外陰部	
8	女性生殖器：会陰、受精の変化、胎盤	
9	内分泌：臍帯、内分泌総論、前葉ホルモン（下垂体門脈）	
10	内分泌：視床下部ホルモン、後葉ホルモン、松果体ホルモン、甲状腺ホルモン	
11	内分泌：副腎皮質ホルモンなど	
12	内分泌・皮膚、副腎髄質ホルモン・消化管ホルモンなど、皮膚の構造	
13	皮膚・眼：皮膚の付属器官、皮膚感覚、眼球外膜	
14	眼：眼球の構造・付属器官	
15	耳：外耳・中耳・内耳の構造	

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験 <基準>前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、前期本試験と比較して良い方の素点を採用し、その点と後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。評価は前後期の平均。
--

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
日本人体解剖学 上巻・下巻	金子丑之介	南山堂
ネッター解剖学アトラス	相磯貞和	南江堂

【科目名】

生理学 I

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	2
担当	山本 知子	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

細胞・筋・神経など人体の各生理機能を、講義・生理学演習を通じて、その基礎的内容について学習する。

- ①細胞の構造と機能について説明できる
- ②シナプス伝達の機能について説明できる
- ③運動器の機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	一般生理、細胞機能の基礎①（細胞の環境、人体構成物質）	
3・4	細胞機能の基礎②（細胞の構造と機能、細胞膜を通過する物質の移動）	
5・6	細胞機能の基礎③（細胞機能調節のメカニズム、受容体、細胞内シグナル）	
7・8	細胞の興奮と伝導①（興奮、細胞膜の電気的性質、活動電位発生時の細胞膜イオン透過性の変化、薬物効果、パッチクランプ、イオンチャンネル）	
9・10	細胞の興奮と伝導②（活動電位の伝導、興奮伝導に影響を及ぼす要因、神経線維の分類）	
11・12	細胞の興奮と伝導③（神経軸索髄鞘の変性、軸索輸送）	
13・14	シナプス伝達①（シナプス、シナプス遅延、神経伝達物質の量子的放出、神経伝達物質）	
15・16	シナプス伝達②（神経伝達物質受容体、神経回路網、シナプスの可塑性、神経の成長と変性）	
17・18	筋肉の収縮①（骨格筋の構造、骨格筋・心筋・平滑筋、筋収縮の分子機構）	
19・20	筋肉の収縮②（興奮収縮連関、骨格筋の力学的性質）	
21・22	運動系①（運動制御の概念、固有感覚、脊髄、脳幹）	
23・24	運動系②（大脳皮質、大脳基底核、小脳）	
25・26	運動の生理①	
27	運動の生理②	
28・29・30	運動の生理③	

【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
生理学テキスト	大地陸男	文光堂

【科目名】

生理学Ⅱ

令和 2 年度

実務教員科目

分野	専門基礎	配当年次	1 年	開講期間	後期	単位数	3
担当	竹村 京子	時間数	40/75	回数	20/38	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

血液・脳の統合機能・呼吸・腎臓・感覚・体温・自律神経系などの人体の各生理機能の基礎知識を理解する。また、生理学演習(動物演習・脳波演習)では、中枢神経系の機能や脳波の基礎知識を学習する。

- ①中枢神経系(感覚系・自律神経系含む)の機能を説明できる
- ②呼吸器系の機能を説明できる
- ③腎機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	血液①:組成、赤血球・白血球・血漿蛋白の機能	
3・4	血液②:生体防御、血液型、血小板、血液凝固	
5・6	脳の統合機能:大脳皮質の構造、機能局在、連合野の機能と障害、言語野と失語症、本能と情動、学習、記憶	
7・8	呼吸:呼吸器の構造・機能、呼吸運動、肺気量、死腔、呼吸力学	
9・10	呼吸:肺のガス交換、換気血流の不均衡、酸塩基平衡、呼吸運動の調節、異常呼吸パターン	
11・12	感覚:感覚の分類、体性感覚(受容器、一般性質、皮膚分節、伝導路)、嗅覚・味覚の構造と機能	
13・14	感覚(視覚):眼球の構造、遠近調節と屈折異常、視細胞と視物質、視覚伝導路と視野の欠損、視野、外眼筋	
15・16	腎臓:構造、ネフロン、糸球体と尿細管の機能、排尿反射、クリアランス、バソプレシンとアルドステロンの作用、	
17・18	体温調節:産熱と放熱、体温の分布と日内変動、体温調節のメカニズム、発熱と解熱の機序 自律神経系:構成と機能、両神経系の走行の特徴、刺激伝達物質と受容体、カテコラミンの作用	
19・20	聴覚・平衡覚:構造と機能	
21・22 23	生理学演習:カエルの中枢神経系に関する演習(大脳・中脳・小脳・延髄の切除による切除前後の機能の変化の観察、脊髄カエルにおける脊髄反射の観察)	
24・25 26	生理学演習:ヒトの脳波の測定(自発脳波の導出、個人差、 α ブロッキング、音楽刺激による脳波変化、脳波の発生機序、睡眠の脳波)	
27・28	全項目の重点まとめ(演習問題を含めて)	

【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験

<基準>竹村講師・種村講師の試験で、それぞれ 6 割以上で単位修得。評定はその平均を素点とする。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
生理学テキスト 【参考図書】人体の構造と機能 第 4 版	大地陸男 エレイン N, マリーブ	文光堂 医学書院

【科目名】

生理学Ⅱ

令和 2 年度

						令和 2 年度	
						実務教員科目	
分野	専門基礎	配当年次	I 年	開講期間	後期	単位数	3
担当	種村 麻里	時間数	30/75	回数	15/38	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

血液・脳の統合機能・呼吸・腎臓・感覚・体温・自律神経系などの人体の各生理機能の基礎知識を理解する。また、生理学演習(動物演習・脳波演習)では、中枢神経系の機能や脳波の基礎知識を学習する。

- ①循環器系の機能について説明できる
- ②消化器系の機能について説明できる
- ③内分泌系の機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	循環の生理① 循環の基礎、心臓の構造 循環の生理② 興奮伝導系、心電図、心臓ポンプ機能	
3・4	循環の生理③ 血管の構造と働き、血圧 循環の生理④ リンパ管系、循環の調節、局所の循環	
5・6	消化と吸収① 消化管の構造、口腔・胃内の消化 消化と吸収② 胃液分泌の調節、小腸の運動、膵液・胆汁の分泌	
7・8	消化と吸収③ 腸液の分泌、吸収、大腸の働き 消化と吸収④ 排便、肝臓の働き 栄養と代謝① 三大栄養素の特徴、糖質の働き	
9・10	栄養と代謝② 内呼吸、脂質・蛋白質の働きと代謝 栄養と代謝③ ビタミン、無機質、基礎代謝量とエネルギー代謝 内分泌系の機能① 内分泌の定義	
11・12	内分泌系の機能② ホルモンの化学的組織と作用機序・分泌・調節、視床下部・下垂体前葉ホルモン 内分泌系の機能③ 下垂体後葉ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモンとカルシトニン、膵臓のホルモン	
13・14	内分泌系の機能④ 副腎皮質のホルモンとレニン・アンジオテンシン系、副腎髄質のホルモン、生殖(減数分裂、性分化、第二性徴) 内分泌系の機能⑤ 精巣のホルモンと精子の形成、卵巣のホルモンと卵子の成熟	
15・16	内分泌系の機能⑥ 女性の性周期、妊娠と分娩、その他のホルモン、総復習プリント	

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>竹村講師・種村講師の試験で、それぞれ 6 割以上で単位修得。評定はその平均を素点とする。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
シンプル生理学 第 7 版	貴邑 富久子	南江堂

【科目名】

生理学Ⅱ

令和2年度

実務教員科目

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	3
担当	中原 英博	時間数	5/75	回数	3/38	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

血液・脳の統合機能・呼吸・腎臓・感覚・体温・自律神経系などの人体の各生理機能の基礎知識を理解する。
また、生理学演習(動物演習・脳波演習)では、中枢神経系の機能や脳波の基礎知識を学習する。

①有酸素運動の方法について説明できる

②運動負荷に対する心応答について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	運動生理学(講義) 生活習慣病とその誘発要因、有酸素運動(強度、頻度、持続時間)	
3・4	運動生理学(演習) 運動時の心拍測定:様々な運動またはメンタルストレス時の心拍数測定	

【成績評価方法】

本授業は生理学Ⅱの評定素点に関わらない。
出席数は生理学Ⅱに計上される。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

基礎運動学 I

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	中谷 秀美	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

運動学の学問体系とその基礎を学ぶとともに、下肢の運動器を中心に運動学・運動力学の視点からヒトの運動について理解を深める。

- ①下肢の関節運動のメカニズムについて説明できる
- ②正常歩行のメカニズムについて説明できる
- ③姿勢制御システムについて説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動学総論	16	膝関節の運動学Ⅵ
2	運動力学Ⅰ	17	足関節の運動学Ⅰ
3	運動力学Ⅱ	18	足関節の運動学Ⅱ
4	運動学各論	19	足関節の運動学Ⅲ
5	股関節の運動学Ⅰ	20	足関節の運動学Ⅳ
6	股関節の運動学Ⅱ	21	足関節の運動学Ⅴ
7	股関節の運動学Ⅲ	22	足関節の運動学Ⅵ
8	股関節の運動学Ⅳ	23	足関節の運動学Ⅶ
9	股関節の運動学Ⅴ	24	歩行Ⅰ
10	股関節の運動学Ⅵ	25	歩行Ⅱ
11	膝関節の運動学Ⅰ	26	歩行Ⅲ
12	膝関節の運動学Ⅱ	27	歩行Ⅳ
13	膝関節の運動学Ⅲ	28	歩行Ⅴ
14	膝関節の運動学Ⅳ	29	運動制御
15	膝関節の運動学Ⅴ	30	静力学

【成績評価方法】

<内容>①小テスト②筆記試験

<基準>評定素点の割合は小テスト 2 割、筆記試験 8 割とし、その素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
基礎運動学 第 6 版補訂 筋骨格系のキネシオロジー 関節運動学的アプローチ	中村隆一 嶋田智明 監訳 博田節夫	医歯薬出版 医歯薬出版 医歯薬出版

【科目名】

基礎運動学Ⅱ

令和2年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	2
担当	中谷 秀美	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

上肢・体幹・頭頸部の運動器を中心に運動学・運動力学の視点からヒトの運動について理解を深める。また、ヒトが運動を学び習熟していく過程についても学習する。

- ①上肢の関節運動のメカニズムについて説明できる
- ②体幹の関節運動のメカニズムについて説明できる
- ③異常歩行の種類と特徴について説明できる
- ④運動学習の過程とそのモデルについて説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	総論 上肢	16	手についてまとめ
2	肩甲帯の運動	17	手についてまとめ
3	上肢帯と肩甲帯の筋とその活動	18	体幹
4	肩甲上腕関節の運動	19	頭部・頸椎の運動
5	肩甲上腕関節の筋とその活動	20	胸椎の運動
6	肩複合体まとめ	21	腰椎・仙椎の運動
7	肘（腕尺・腕橈・上橈尺関節）の運動	22	体幹の筋とその活動
8	上腕の筋とその活動	23	体幹まとめ
9	肘のまとめ	24	眼球と顔面、正常歩行の復習
10	手関節の運動	25	咀嚼と呼吸、正常歩行の復習、レクチャー
11	手関節の筋とその活動	26	異常歩行①、レクチャー
12	手関節のまとめ	27	異常歩行②、正常歩行自習
13	手指	28	異常歩行③、自習
14	手指の関節の運動	29	運動学習①
15	手指の筋とその活動	30	運動学習②、折り紙にて、松葉杖を通して

【成績評価方法】

<内容>①小テスト②筆記試験

<基準>評定素点の割合は小テスト2割、筆記試験8割とし、その素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
基礎運動学 第6版補訂	中村隆一	医歯薬出版
筋骨格系のキネシオロジー 第3版	嶋田智明 監訳	医歯薬出版
関節運動学的アプローチ 第2版	博田節夫	医歯薬出版

【科目名】

人間発達学

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	小林 功	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

人間に対する理解の基礎として、ライフステージごとの身体と運動機能の発達、知的・心理的・社会的発達、人格の発達などを学習する。

- ①乳幼児・小児期における運動・精神・言語発達について説明できる
- ②青年期における身体構造・生理機能の変化について説明できる
- ③老年期における身体構造・生理機能の変化について説明できる

回数	講義内容	備考
1	総論：人間発達とは	
2	発達の見方と発達検査の進め方	
3	胎児・新生児・乳児期の発達	
4	幼児・学童期の発達	
5	青年・成人・老人期の発達	
6	身体の運動機能と構造の発達 知覚・認知機能の発達	
7	情緒・社会性の発達 言語機能の発達	
8	脳・神経系・内部機能の発達	

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
リハビリテーションのための人間発達学 第 2 版	大城 昌平	メディカルプレス

【科目名】

病理学

令和 2 年度

実務教員科目

分野	専門基礎	配当年次	1 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	森本 純司	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

疾病の原因及び形態変化を、主要疾病と関連させながらその基本的内容について学習する。

- ①傷害組織の修復過程ならびに再生過程について説明できる
- ②炎症反応のメカニズムについて説明できる
- ③血行障害の病因・病態について説明できる
- ④腫瘍の分類、グレード、ステージについて説明できる

回数	講義内容	備考
1	病理学とは、病因論、病理学の役割・内容と病気の原因	
2	細胞傷害と細胞増殖：組織細胞の修復と再生、壊死とアポトーシス、変性、再生、創傷治癒、骨折治癒、異物処理	
3	循環障害：充血、うっ血、虚血、血栓症、出血、塞栓症、梗塞、ショック、浮腫、脱水症	
4	炎症：炎症の徴候、急性炎症、分類、慢性炎症、特殊性炎感染症	
5	免疫：免疫機構の異常、液性・細胞性免疫、免疫担当細胞、抗原・抗体（免疫グロブリン）、アレルギー、自己免疫疾患	
6	遺伝と遺伝病：先天異常（奇形）、遺伝要因と環境要因、先天性代謝異常、遺伝子診断	
7	腫瘍：特徴、組織分類、転移、良性・悪性の鑑別、機能性腫瘍、腫瘍マーカー、発生要因、腫瘍の宿主との関係、疫学	
8	代謝異常：石灰沈着、細胞内外物質沈着、黄疸、蛋白質代謝異常、脂質代謝異常、糖質代謝異常、萎縮、肥大・過形成	
9	循環器：先天性心疾患、虚血性心疾患、心内膜炎、弁膜症、心筋症、心肥大と心不全、血管の病気	
10	呼吸器：上気道、下気道の病気、循環障害、炎症、腫瘍など	
11	消化器：口腔、唾液腺、食道の病気、胃・腸の病気、肝臓・膵臓の病気	
12	内分泌臓器：脳下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎皮質、髄質、膵臓ラ氏島の病気	
13	造血器：赤血球・白血球の異常、血小板の異常、リンパ節の病気、脾臓、胸腺の病気	
14	泌尿器・生殖器：腎臓の病気、子宮頸部・体部の病気、織毛性疾患、卵巣・乳腺の病気、男性生殖器の病気	
15	運動器：骨・関節の病気、骨の炎症及び腫瘍病変、関節・筋肉の病気、脳神経系：脳の循環障害、感染症、脱髄、変性疾患 など	

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験
<基準>素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
シンプル病理学 第 7 版	笹野公伸	南江堂

【科目名】

医学概論

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	畠山 雅行	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

医学の成り立ちや医療者の基本的姿勢、医学対象となる健康・病気の概念や病気の成り立ちと基本的な診断・治療について学ぶ。

- ①医の倫理（患者・対象者の権利、医療者の義務）について説明できる
- ②健康の定義・概念について説明できる
- ③病気成り立ちについて説明できる
- ④病気の治療方法について説明できる

回数	講義内容	備考
1	はじめに 第1章：医学をどのようにとらえるか 付章：衛生統計	
2	第1章：医学概論で何を学ぶか、 第2章：医学発達の姿	
3	第3章：健康・病気・医学の体系	
4	第4章：病気の原因 第5章：病気による身体の変化	
5	第6章：病気の診断、病気の治療	
6	第7章：病気の治療とリハビリテーション	
7	第8章：病気の予防、	
8	第9章：新しい医療システム 第10章：生命へのアプローチ	

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
現代医学概論 第二版	柳澤 信夫	医歯薬出版 株式会社

【科目名】

内科学

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	通期	単位数	2
担当	栗岡 英行	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

内科学全般を概観し、疾病と障害の成り立ちおよび回復過程等の必要とされる基本的な医学的知識について学習する。

- ①一般的な循環器疾患について説明できる
- ②一般的な呼吸器疾患について説明できる
- ③一般的な消化器疾患について説明できる
- ④一般的な腎・泌尿器疾患について説明できる
- ⑤一般的な血液・自己免疫疾患について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	内科総論	
3・4	診断と検査	
5・6	症候	
7・8	循環器疾患	
9・10	呼吸器疾患	
11・12	消化器疾患	
13・14	肝胆膵疾患	
15・16	血液・造血器疾患	
17・18	代謝性疾患	
19・20	内分泌疾患	
21・22	腎・泌尿器疾患	
23・24	膠原病・アレルギー・免疫不全	
25・26	感染性疾患	
27・28	中毒・環境要因による疾患	
29・30	その他	

【成績評価方法】

<内容> ①小テスト②筆記試験

<基準> 前後期共に素点が 6 割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果 6 割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して 120 点以上あれば単位修得。評定は前後期の平均。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
なるほどなっとく! 内科学 改訂 2 版	浅野嘉延	南山堂

【科目名】 神経科学（神経内科学）						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	通期	単位数	2
担当	森下真次、拾尾和彦	時間数	30/45	回数	15/23	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

神経症候学ならびに神経内科、および脳神経外科領域でみられる疾患、障害の基礎的知識を学習する。なお神経科学は、神経内科学（30 時間／2 年）および脳神経外科学（15 時間／2 年）により構成される。

①一般的な神経症候について説明できる

②一般的な神経内科疾患について説明できる

回数	講義内容	備考
1	神経症候学① 意識障害	森下
2	神経疾患各論① 脳血管障害	拾尾
3	神経症候学② 運動麻痺・錐体路徴候・筋萎縮	森下
4	神経疾患各論② 認知症	拾尾
5	神経症候学③ 錐体外路徴候・不随意運動	森下
6	神経疾患各論③ 脱髄疾患	拾尾
7	神経症候学④ 運動失調	森下
8	神経疾患各論④ 変性疾患（ALS）	拾尾
9	神経症候学⑤ 感覚障害	森下
10	神経疾患各論⑤ 変性疾患（PD、パーキンソン症候群、SCD、MSA）	拾尾
11	神経症候学⑥ 失認・失行	森下
12	神経疾患各論⑥ 筋疾患（ミオパチー）・SCD	拾尾
13	神経症候学⑦ 脳神経外科領域の疾患	森下
14	神経疾患各論⑦ 代謝疾患（感染症、髄膜炎総論）・筋疾患②	拾尾
15	神経疾患各論⑧ 感染症	拾尾

【成績評価方法】

<内容>①平常点②筆記試験

<基準>神経内科と脳神経外科それぞれで試験を行い、それぞれの素点が 6 割以上で単位修得。評定素点の割合は神経内科 2/3、脳神経外科 1/3。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
病気が見える vol.7 脳・神経 第 2 版		メディックメディア

【科目名】 神経科学(脳神経外科学)						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	通期	単位数	2
担当	川口 正一郎	時間数	15/45	回数	8/23	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

神経症候学ならびに神経内科、および脳神経外科領域でみられる疾患、障害の基礎的知識を学習する。なお神経科学は、神経内科学(30 時間/2 年)および脳神経外科学(15 時間/2 年)により構成される。

①一般的な脳血管疾患について説明できる

②一般的な脳神経外科疾患について説明できる

回数	講義内容	備考
1	神経系の構造と機能①	
2	神経系の機能と構造②、症候と検査	
3	脳血管障害 虚血性①	
4	脳血管障害 虚血性②	
5	脳血管障害 出血性	
6	頭蓋内圧亢進 水頭症	
7	脳腫瘍	
8	頭部外傷	

【成績評価方法】

<内容> ①筆記試験
<基準> 神経内科と脳神経外科それぞれで試験を行い、それぞれの素点が 6 割以上で単位修得。評定素点の割合は神経内科 2/3、脳神経外科 1/3。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
病気が見える vol.7 脳・神経 第 2 版		メディックメディア

【科目名】 整形外科学						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	通期	単位数	2
担当	東山 一郎	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
理学療法に必要な骨関節、神経疾患などの整形外科的知識を学習する。							
①骨関節障害の一般的疾患について説明できる							
②骨関節障害の治療について説明できる							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	整形外科の基礎① 骨の構造			16	整形外科各論⑥ 末梢神経損傷		
2	整形外科の基礎② 軟骨の構造①			17	整形外科各論⑦ 頸部・頸椎部疾患①		
3	整形外科の基礎③ 軟骨の構造②、筋肉の構造①			18	整形外科各論⑧ 頸部・頸椎部疾患②		
4	整形外科の基礎④ 筋肉の構造②			19	整形外科各論⑨ 胸腰椎部疾患①		
5	整形外科の基礎⑤ 末梢神経の構造			20	整形外科各論⑩ 胸腰椎部疾患②		
6	整形外科の基礎⑥ 関節の変形・拘縮			21	整形外科各論⑪ 肩甲帯部疾患①		
7	整形外科の基礎⑦ 整形外科学診断学			22	整形外科各論⑫ 肩甲帯部疾患②		
8	整形外科の基礎⑧ 整形外科的治療学			23	整形外科各論⑬ 肘・前腕の疾患①		
9	整形外科の基礎⑨ 整形外科的外傷学			24	整形外科各論⑭ 肘・前腕の疾患②		
10	整形外科の基礎⑩ スポーツ外傷			25	整形外科各論⑮ 手関節疾患		
11	整形外科各論① 整形外科領域の感染症			26	整形外科各論⑯ 手指疾患		
12	整形外科各論② リウマチ性疾患			27	整形外科各論⑰ 骨盤・股関節疾患①		
13	整形外科各論③ 代謝性骨疾患			28	整形外科各論⑱ 骨盤・股関節疾患②		
14	整形外科各論④ 骨・軟部腫瘍			29	整形外科各論⑲ 膝関節疾患		
15	整形外科各論⑤ 脳性麻痺			30	整形外科各論⑳ 足関節・足疾患		

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>前後期共に素点が 6 割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果 6 割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して 120 点以上あれば単位修得。評価は前後期の平均。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
標準整形外科学 第 14 版	鳥巢 岳彦	医学書院

【科目名】 精神医学						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	上川 比呂勝	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
分裂病やてんかん、そう・うつ病、老年期精神障害など、精神医学の基礎知識について学習する。 ①精神障害の一般的疾患について説明できる ②精神障害の治療について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	自己紹介、講義の概要アルツハイマー型認知症						
2	アルツハイマー型認知症、AD の記憶障害の特徴 ニューロンとシナプス、心とは						
3	脳血管性認知症、脳血管性認知症の症状と病理と治療						
4	統合失調症、症状、思考障害、発病、治療						
5	統合失調症、症状、思考障害、発病、治療						
6	統合失調症、症状、思考障害、発病、治療						
7	気分障害、うつの症状、経過、注意点						
8	気分障害、うつの症状、経過、注意点						
9	気分障害、うつの症状、経過、注意点						
10	神経症および心因性精神障害						
11	老年期の精神障害						
12	アルコール症						
13	てんかん						
14	症状精神病						
15	器質性精神障害、人格障害、児童思春期の精神障害						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
看護のための精神医学 第 2 版				中井 久夫		医学書院	

【科目名】 小児科学						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	石垣早知子、神原雪子	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
子どもの成長、発達と小児期によくみられる疾患を中心に学習し、小児期における疾患の特徴について学習する。 ①小児の障害を引き起こす一般的疾患について説明できる ②小児の障害を引き起こす主な疾患の治療について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	小児科学概論						石垣
2	新生児未熟児、先天異常、遺伝性疾患 乳幼児健診、予防接種						石垣
3	中枢神経疾患、てんかん、脳性麻痺、筋疾患						石垣
4	感染症、感染対策						石垣
5	消化器疾患、内分泌疾患						石垣
6	精神遅滞、発達障害、自閉症、ADHD、LD、循環器、呼吸器疾患						神原
7	心身症、重心児、医療的ケア、眼科疾患、聴覚障害、小児 MRI の見方						神原
8	血液疾患、免疫、アレルギー疾患、腎疾患、腫瘍性疾患、他まとめ						石垣
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名					著者名		発行所
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第 5 版					奈良 勲 監修		医学書院

【科目名】 臨床心理学						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	西部 美志	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
障害者の心理を理解できるよう正常および異常心理、心理学的検査・カウンセリングについて学習する。 ①患者・対象者心理について説明できる ②臨床心理検査法について説明できる ③心理療法およびカウンセリングについて説明できる							
回数	講義内容						備考
1	臨床心理学とは（歴史と概観 こころの理解と援助）						
2	心理援助の実際、様々な事例に学ぶ						
3	心理援助の基礎を学ぶ、人格論、フロイト						
4	心理援助の基礎を学ぶⅠ、人格論、ユング、ロジャース						
5	心理援助の基礎を学ぶⅢ、人格論、コフート、カーンバーグ						
6	心理援助の基礎を学ぶⅣ、発達論、マラー、ウイニコット、エリクソン						
7	心理援助の基礎を学ぶⅤ、発達論、ピアジェ						
8	心理アセスメントⅠ、アセスメントとは						
9	心理アセスメントⅡ、人格検査						
10	心理アセスメントⅢ、その他の検査、心理テスト実習						
11	心理援助の方法を知る、心理療法とは、クライエント中心療法						
12	心理援助の方法を知るⅡ、精神分析療法						
13	心理援助の方法を知るⅢ、行動療法						
14	心理援助の方法を知るⅣ、その他（パーソナリティ・学習・記憶）、国試対策						
15	まとめ、国試対策						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験（9 割）②平常点（1 割） <基準>①②合算の素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
心とかかわる臨床心理 第 3 版				川瀬正裕 他		ナカニシヤ出版	

【科目名】						令和 2 年度	
臨床医学Ⅰ						実務教員科目	
分野	専門基礎	配当年次	Ⅰ 年	開講期間	後期	単位数	Ⅰ
担当	赤松眞吾 新田章貴	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
理学療法士として必要な栄養、予防および救急救命の基礎について学習する。また、救急法については演習を通じて学習する。 ①リハビリテーション栄養について説明できる ②救急救命について説明できる ③Ⅰ次予防からⅢ次予防について説明できる							
回数	講義内容						備考
Ⅰ	リハビリテーション栄養の必要性を説明できる。						
2	低栄養の評価と原因を関連付けられる。						
3	栄養状態に応じたリハビリテーションの目標を設定できる。						
4	BLS の正しい知識と適切な処置の仕方を学ぶ。						
5	一次救命処置を理解し、自身の安全を確保した上で、人工呼吸を含む心肺蘇生および AED の操作を行うことができるようになる。						
6	一次予防およびの概念と理論に基づき、個人・集団の健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め、疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関する知識を習得する。						
7	二次予防およびの概念と理論に基づき、疾病早期発見・早期治療等、疾病・傷害の重症化を防ぐ保健・医療に関する知識を習得する。						
8	三次予防およびの概念と理論に基づき、疾病再発予防やリハビリテーション等、保健予防・医療に関する知識を習得する。						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験							
<基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
配布資料							

【科目名】 臨床医学Ⅱ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	大野 耕一	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
理学療法士として必要な臨床外科学、特に消毒・救急学に関する外科的知識の基礎について学習する。 ①外科の一般的疾患について説明できる ②外科的治療について説明できる ③消毒法について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	・回復期リハビリテーション病院について ・リハ栄養について ・分岐酸アミノ酸について ・ERAS について						
2	・外科、リハの歴史 ・医療・保険制度 ・滅菌と消毒法						
3	・がんの発生と疫学						
4	・侵襲の病態生理 ・内視鏡外科						
5	・体表にみられる代表的な外科疾患 ・損傷						
6	・外科的診断法 局所解剖 ・画像診断						
7	・術前術後管理と外科合併症 ・消化器手術再建法 ・外科感染症						
8	・出血・止血・輸血 ・ショック						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
標準外科学 Standard textbook 第 15 版				北野正剛 監修		医学書院	

【科目名】						令和 2 年度	
臨床医学Ⅲ						実務教員科目	
分野	専門基礎	配当年次	3 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	複数講師	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
理学療法士として必要な臨床薬学と医用画像の基礎について学習する。 ①薬剤について説明できる ②薬理作用について説明できる ③医用画像の診かたについて説明できる							
回数	講義内容						備考
1	薬学						
2	薬学						
3	レントゲンの見方（一般）、X 線発生の原理、骨折の基本事項、X 線写真の見方						
4	レントゲンの見方（CT）、原理、症例、解剖図						
5	MRI の装置の特徴と見方、原理、臨床、安全教育ビデオ MRI						
6	血液検査データの見方、AST、ALT、LDH、CPK、CRP など 超音波検査について、心臓超音波検査の症例						
7	心電図について、心電図の原理、重篤な不整脈、心電図の症例						
8	超音波画像						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
資料配布							

【科目名】

リハビリテーションⅠ

令和2年度

実務教員科目

○

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	1
担当	赤松 真吾	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

リハビリテーションの理念と病気と障害、リハビリテーション医学の体系、及び包括的なリハビリテーション医療の考え方を学習する。また、関連専門職の視点から自立支援、就労支援、地域包括ケアシステム及び他職種連携について学び理解を深める。

- ①医学的リハビリテーションについて説明できる
- ②リハビリテーション医療におけるチーム医療・他職種連携について説明できる
- ③リハビリテーション医療専門職の役割について説明できる

回数	講義内容	備考
1	リハビリテーション、歴史、概念、医学的リハビリテーション、リハビリテーション医学、ICIDHとICFの違い	赤松
2	職業的リハ、教育的リハ、社会的リハ、障害と病期	赤松
3	SOAP法、クリニカルパス、諸問題	赤松
4	医師の役割、リハビリテーション処方について、今後のリハビリテーション（透析患者へのリハ、がんリハ、再生医療とリハ、超音波とリハ、ロボットとリハ）	赤松
5		
6	看護師の役割、①看護師の業務内容、②看護師の活躍の場、③チームアプローチについて医師の役割	Nrs
7	作業療法と作業療法士、①作業療法士の役割、②身体障害の作業療法、③精神障害の作業療法、④PTとの協働	OT
8	言語聴覚士の臨床（失語症、嚥下障害）、①失語症のタイプ、症状、②失語症のリハビリの流れ、③失語症患者様への対応ほか	ST
9		Dr
10	MSWの役割	MSW
11・12	介護保険・地域包括支援について	訪問看護
13	訪問看護について	訪問看護
14・15	奈良県総合リハビリテーションセンター施設見学、県営福祉パーク見学・体験	校外学習

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第3版		

【科目名】 リハビリテーションⅡ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	濱中 紀成	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
リハビリテーション医学の概念と、各障害に対するリハビリテーション医療の基本原則を学習する。 ①リハビリテーション医療の特徴について説明できる ②リハビリテーション医療における医学的情報（病理・生理・画像診断含む）について説明できる ③リハビリテーション医療で取り扱う身体障害の治療について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	リハビリテーション医学概論 リハビリテーション評価						
2	画像検査						
3	一般検査						
4	脳性麻痺、障害受容、循環機能障害						
5	パーキンソン病と変性疾患、切断						
6	精神障害、脊髄損傷						
7	CRPS、内部障害						
8	内部障害、腰痛症						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
最新リハビリテーション医学 第 3 版				米本 恭三監修		医歯薬出版	

【科目名】 保健医療福祉関係論						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門基礎	配当年次	3 年	開講期間	通期	単位数	2
担当	畠山 雅行	時間数	45	回数	23	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
保健・医療・福祉にわたり理学療法士として必要な社会福祉や公衆衛生、及び公的介護保険に関する医療制度などの基本的知識を学習する。 ①保健・医療・福祉の政策の動向について説明できる ②社会保障制度（医療保険制度、介護保険制度など）について説明できる ③健康維持、健康増進における理学療法士の役割について説明できる ④災害保健における理学療法士の役割について説明できる ⑤地域保健および学校保健（特別支援教育など）における理学療法士の役割について説明できる ⑥産業保健における理学療法士の役割について説明できる ⑦国際支援に関わる基盤について説明できる							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	保健医療福祉概論			12	精神保健		
2	保健医療福祉総論、グループ分け			13	母子保健		
3	グループ活動、健康増進			14	学校保健		
4	保健医療福祉の制度と法規			15	環境保健		
5	高齢者の健康医療介護			16	環境保健		
6	疾病予防と健康管理			17	環境保健、公害		
7	地域健康と保健行政			18	主な疾患の予防と治療		
8	国際保健医学			19	環境保健		
9	メタボリックシンドロームと対策			20	主な疾患の予防、がん検診		
10	産業保健			21、22	グループ発表		
11	産業保健			23	まとめ		
【成績評価方法】							
<内容>①グループワーク発表②筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名					著者名		発行所
シンプル衛生公衆衛生学					鈴木 庄亮		南江堂

【科目名】

理学療法概論

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	2
担当	赤松 眞吾	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

理学療法について、その全体像が把握できるよう総合的・体系的に学習する。

- ①理学療法の定義について説明できる
- ②理学療法とリハビリテーションの違いについて説明できる
- ③理学療法の過程について説明できる
- ④各病期（急性期、回復期、生活期、介護・終末期）における理学療法の意義や目的について説明できる
- ⑤理学療法士の職域について説明できる

回数	講義内容	備考
1	オリエンテーション、理学療法カリキュラム概要	
2	理学療法士の定義	
3	PT・OT 法について①	
4	PT・OT 法について②	
5	障害について① (ICIDH)	
6	障害について② (ICF)	
7	障害について③まとめ	
8	世界の理学療法	
9	EBM・EBPT	
10	理学療法の治療技術について①運動療法	
11	理学療法の治療技術について②物理療法	
12	理学療法の治療技術について③ADL 訓練	
13	障害受容について	
14	理学療法業務について①	
15	理学療法業務について②	

【成績評価方法】

<内容>①出席点②筆記試験

<基準>①15%②85%を合わせて 60%以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
理学療法概論 (PT・OT ビジュアルテキスト) 第 1 版	庄本康治	羊土社

【科目名】 臨床運動学						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	通期	単位数	2
担当	田中貴広、建内宏重 森公彦、脇田正徳	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
基礎運動学により習得した基礎的知識・技術を踏まえ、身体障害者の運動分析と問題点の理解を中心に学習する。 ①上肢関節の運動機能障害について運動学的に説明できる ②下肢関節の運動機能障害について運動学的に説明できる ③体幹関節の運動機能障害について運動学的に説明できる							
回数	講義内容						備考
1・2	総論、臨床運動学とは 障害を運動学的に解釈することについて例を提示しながら解説						田中
3・4	運動学の基礎、臨床運動学の理解に必要な、重心、支持基底面、関節モーメントについて解説						田中
5・6	神経筋機能、臨床運動学の理解に必要な、長さ張力曲線、筋断面積、サイズの原理、筋作用の逆転、反応時間、RFD などについて解説						田中
7・8	姿勢とその障害 立位姿勢の基礎および障害について、運動学的に解説						建内
9・10	歩行とその障害 歩行の基礎および障害について、運動学的に解説						建内
11・12	肩関節の機能とその障害 肩関節の機能および障害について、運動学的に解説						建内
13・14	股関節の機能とその障害 股関節の機能および障害について、運動学的に解説						建内
15・16 17・18	脊柱・体幹の機能とその障害 脊柱・体幹の機能および障害について、運動学的に解説						森
19・20 21・22	足関節・足部・足趾の機能とその障害 足関節・足部・足趾の機能および障害について、運動学的に解説						森
23・24 25・26	膝関節の運動学①・膝の運動学② 膝関節の病態運動学①・膝関節の病態運動学②						脇田
27・28 29・30	中枢神経疾患の運動学①(脳卒中)・②(パーキンソン) 中枢神経疾患の運動学③(失調中)・④(その他)						脇田
【成績評価方法】							
<内容> ①筆記試験 <基準> 前後期共に素点が 6 割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果 6 割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して 120 点以上あれば単位修得。評価は前後期の平均。							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
筋骨格系のキネシオロジー 身体運動学－関節の制御機構と筋機構－				嶋田智明 監訳 市橋則明		医歯薬出版 メジカルビュー	

【科目名】

理学療法障害学Ⅰ

令和2年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	1
担当	宮崎 尚也	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

理学療法で扱う障害の概念や各疾患で起こる障害構造を理解する。

- ①国際障害分類（ICIDH、ICF）について説明できる
- ②理学療法の対象となる身体障害について説明できる
- ③二次障害について説明できる

回数	講義内容	備考
1	ICD・ICIDH の総論	
2	ICIDH を用いた障害の把握：大腿骨頸部骨折症例	
3	ICF 総論	
4	ICF を用いた障害の把握：大腿骨頸部骨折症例	
5	障害者体験：視覚障害／SCI・W/C 生活者／CVA／下腿骨骨折	
6	国際生活機能分類（ICF）を使った障害の把握、運動障害、グループワーク	
7	ICF を使った障害の把握、グループワーク、摂食嚥下障害、リンパ浮腫	
8	発表会（障害者体験）	

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
理学療法概論 課題・動画を使ってエッセンスを学びとる 第1版 ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－	庄本康治	羊土社 中央法規

【科目名】

理学療法障害学Ⅱ

令和2年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	3年	開講期間	通期	単位数	2
担当	赤松眞吾、他	時間数	45	回数	23	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

理学療法で扱う障害を器官機能別に整理して、その障害構造を学ぶとともに、適応となる理学療法を最新のトピックスをふまえて学習する。

①器官・機能別の障害について説明できる

②器官・機能障害別の理学療法について説明できる

回数	講義内容	担当
1・2	理学療法総論	柏木宏彦
3・4	循環障害の理学療法	河村知範
5・6 7・8	呼吸障害の理学療法、パーキンソン病の理学療法、臨床研究のすすめ 代謝障害の理学療法	松尾善美
9・10	ウィメンズヘルス領域における理学療法	小路実春
11・12 13・14	呼吸障害の理学療法、パーキンソン病の理学療法、臨床研究のすすめ 代謝障害の理学療法	松尾善美
15・16	骨・関節障害の理学療法	原典子
17・18	神経・筋障害の理学療法	植田能茂
19・20	脳障害の理学療法	田後裕之
21・22	スポーツ障害の理学療法	小柳磨毅
23・24	疼痛に対する理学療法	赤松眞吾
25・26	脊髄障害の理学療法	片岡愛美

【成績評価方法】

<内容>①出席点
<基準>素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
歩行を診観察から始める理学療法実践 PT・OT ビジュアルテキスト 内部障害 理学療法学 第1版	奈良勲 松尾善美	文光堂 羊土社

【科目名】

理学療法研究概論

令和 2 年度

実務教員科目

分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	治部哲也、小林功	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

理学療法における研究活動の位置づけや方法論について系統的に学習する。

- ①理学療法における研究の必要性・意義が説明できる
- ②利益相反について説明できる
- ③研究疑問に応じた研究デザインについて説明できる
- ④研究疑問に基づき、先行研究を検索できる

回数	講義内容	備考
1	EZR を用いた統計解析①	治部
2	EZR を用いた統計解析②	治部
3	EZR を用いた統計解析③	治部
4	シングルケースデザイン、グループ活動オリエンテーション	小林
5	ランダム化比較試験	小林
6	メタアナリシス、システマティックレビュー	小林
7	コホート研究、症例対照研究、Evidence Based Medicine	小林
8	Evidence Based Medicine	小林
9・ 10・ 11	課題補講	小林
12.13	発表	小林

【成績評価方法】

<内容>①グループ発表点

<基準>素点 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】理学療法管理学						令和 2 年度	
						実務教員科目	
分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	通期	単位数	2
担当	宮崎尚也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
医療保険制度、介護保険制度を理解し、理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学び、職業倫理を高める態度を養う。							
①コンプライアンス・法令違反について説明できる							
②ハラスメントについて説明できる							
③理学療法の診療報酬または介護報酬などについて説明できる							
④理学療法実施後の診療記録と書類管理について説明できる							
⑤理学療法機器の保守点検・安全管理について説明できる							
⑥臨床教育の方法について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	総論						
2	病院の分類と組織						
3	専門職とチームケア						
4	社会保障のしくみ						
5	医療保険制度						
6	介護保険制度						
7	診療・介護報酬と収益構造						
8	保健・医療・介護・福祉の連携						
9	業務管理						
10	情報管理						
11	リスク管理						
12	権利擁護と職業倫理						
13	教育管理						
14	医療・介護と政治・政策との関係						
15	キャリアデザイン						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験							
<基準>素点 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
15 レクチャーシリーズ 理学療法管理学				石川 朗 長野 聖		中山書店	

【科目名】理学療法評価総論Ⅰ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	Ⅰ 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	旦 尚敏	時間数	24/60	回数	12/30	授業方法	実験・実習・実技
授業の概要、到達目標							
理学療法における評価の概念や方法論などを総合的・系統的に学習する。また、関節運動の評価と関節可動域の測定技術について学習する。なお、理学療法評価総論Ⅰは、理学療法評価総論Ⅰ（総論：24 時間）と理学療法評価総論Ⅰ（ROM：36 時間）で構成される。							
①理学療法評価の目的と評価方法について説明できる ②理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる ③バイタルサインの測定が実施できる ④形態測定が実施できる							
回数	講義内容						備考
1	理学療法評価とは（定義・目的など）						
2	理学療法評価とは（目標設定・Need の捉え方など）						
3	情報収集（直接的・間接的手段）						
4	検査・測定 Vital signs（総論、脈拍）						
5	検査・測定 Vital signs（血圧①）						
6	検査・測定 Vital signs（血圧②）						
7	検査・測定 Vital signs（呼吸・体温）						
8	検査・測定 形態測定（総論、周径①）						
9	検査・測定 形態測定（周径②）						
10	検査・測定 形態測定（四肢長①）						
11	検査・測定 形態測定（四肢長②）						
12	検査・測定 筋力測定（粗大筋力）						
【成績評価方法】							
<内容> ①筆記試験②実技試験 <基準> 評価総論Ⅰと評価総論Ⅰ_ROM それぞれで試験を行い、それぞれの素点が 6 割以上で単位修得。評定素点はそれぞれの平均。							
【使用教科書】							
書名						著者名	発行所
理学療法評価学 第 6 版							金原出版

【科目名】

理学療法評価総論 I

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	I 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	旦 尚敏	時間数	36/60	回数	18/30	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

理学療法における評価の概念や方法論などを総合的・系統的に学習する。また、関節運動の評価と関節可動域の測定技術について学習する。なお、理学療法評価総論 I は、理学療法評価総論 I（総論：24 時間）と理学療法評価総論 I（ROM：36 時間）で構成される。

①関節可動域制限の程度と関連因子について説明できる

②関節可動域の測定を実施できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	ROM 測定 総論	10	ROM 測定 各論 膝関節屈曲/伸展 足関節背屈/底屈
2	ROM 測定 総論・各論 肩屈曲/伸展	11	ROM 測定 各論 足部内転/外転 足部内反し/外反し
3	ROM 測定 各論 肩外転/内転	12	ROM 測定 各論 母趾 MP・IP 関節屈曲/伸展 足趾 MP・PIP・DIP 関節屈曲/伸展
4	ROM 測定 各論 肩外旋/内旋 肩水平屈曲/水平伸展	13	ROM 測定 各論 頸部屈曲/伸展 頸部回旋 頸部側屈
5	ROM 測定 各論 肘屈曲/伸展 前腕回内/回外	14	ROM 測定 各論 胸腰部屈曲/伸展 胸腰部回旋 胸腰部側屈
6	ROM 測定 各論 手関節掌屈/背屈 手関節橈屈/尺屈	15	ROM 測定 各論 肩甲帯屈曲/伸展 肩甲帯挙上/下制
7	ROM 測定 各論 母指 MP・IP 関節屈曲/伸展 手指 MP・PIP・DIP 関節屈曲/伸展 母指橈側外転/内転 母指掌側外転/内転	16	ROM 測定 各論 ROM 制限に対する検査法
8	ROM 測定 各論 指外転/内転 母指対立 股関節屈曲/伸展	17	ROM 測定 各論 総括・復習① 上肢
9	ROM 測定 各論 股関節外転/内転 股関節外旋/内旋	18	ROM 測定 各論 総括・復習② 下肢・体幹

【成績評価方法】

<内容> ①筆記試験②実技試験

<基準> 評価総論 I と評価総論 I_ROM それぞれで試験を行い、それぞれの素点が 6 割以上で単位修得。評定素点はそれぞれの平均。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

理学療法評価総論Ⅱ

令和2年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	2
担当	宮崎 尚也	時間数	60	回数	30	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

理学療法評価法のうち筋力テストの概念や基本的な知識、その技術を習得する。

①筋力の評価方法について説明できる

②筋力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	総論①	16	肩関節屈曲、肩関節伸展、肩関節外転
2	総論②、股関節屈曲	17	肩関節水平外転、肩関節水平内転
3	股関節屈曲・外転・膝屈曲位からの外旋	18	肩関節外旋、肩関節内旋
4	股関節伸展	19	肘関節屈曲、肘関節伸展
5	股関節外転、股関節屈曲位での外転	20	前腕回内、前腕回外
6	股関節内転、股関節外旋	21	手関節屈曲、手関節伸展
7	股関節内旋、膝関節屈曲	22	MP関節屈曲、IP関節屈曲、MP関節伸展
8	膝関節伸展	23	指外転、指内転、母指 MP・IP 関節屈曲
9	足関節底屈、足関節背屈・内がえし	24	母指 MP・IP 関節伸展、母指外転、母指内転
10	足関節内がえし、足関節底屈・外がえし	25	対立動作、頭部・頸部・複合伸展
11	母趾・足趾 MP 屈曲、PIP・DIP 屈曲	26	頭部・頸部・複合屈曲、頭部回旋
12	母趾・足趾 MP・IP 伸展	27	骨盤挙上、体幹屈曲、体幹回旋、安静吸気
13	肩甲骨外転・上方回旋、肩甲骨挙上	28	粗大筋力
14	肩甲骨内転、肩甲骨下制・内転	29	脳神経支配筋のテスト①
15	肩甲骨内転・下方回旋、肩甲骨下制	30	脳神経支配筋のテスト②

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験②実技試験

<基準>①②合算し、6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
新・徒手筋力検査法 原著第10版	Helen J. Hislop	協同医書出版

【科目名】 理学療法評価各論Ⅰ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	旦 尚敏	時間数	30	回数	15	授業方法	実験・実習・実技
授業の概要、到達目標							
理学療法に関連した検査・測定を中心に、各種疾患に伴う障害の評価が行えるように学習する。 ①疼痛の程度と関連要因を把握する評価が実施できる ②反射異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる ③感覚異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる ④運動麻痺の程度と関連要因を把握する評価が実施できる ⑤意識・精神障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
回数	講義内容						備考
1	理学療法評価、評価プロセス、尺度、感度、特異度、尤度比、カットオフ値						
2	痛みの診かた（実技含む）、痛みの分類、痛みの検査、評価スケール（VAS, NRS, FRS, MPQ）						
3	反射の診かたⅠ（実技含む）、腱反射の意義、判定、記録						
4	反射の診かたⅡ（実技含む）、表在反射の意義、判定、記録						
5	反射の診かたⅢ（実技含む）、病的反射の意義、判定、記録						
6	筋緊張の診かたⅠ（実技含む）、異常筋緊張（痙縮、硬直、筋緊張低下）、筋緊張の検査Ⅰ						
7	筋緊張の診かたⅡ（実技含む）、筋緊張の検査Ⅱ、評価スケール（AS, MAS）						
8	感覚の診かたⅠ（実技含む）、感覚の分類、デルマトームと末梢感覚神経支配						
9	感覚の診かたⅡ（実技含む）、感覚検査の意義と原則、表在感覚検査						
10	感覚の診かたⅢ（実技含む）、深部感覚検査、複合感覚検査						
11	運動麻痺の診かたⅠ（実技含む）、運動麻痺の分類、運動麻痺の回復						
12	運動麻痺の診かたⅡ（実技含む）、運動麻痺の検査（各種テスト）						
13	運動麻痺の診かたⅢ（実技含む）、評価スケール（BRST, 12 段階片麻痺回復グレード法）						
14	意識・精神機能の診かたⅠ						
15	意識・精神機能の診かたⅡ、まとめ						

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験②実技試験
<基準>①②合算し、素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版 理学療法評価学 改訂第 6 版	田崎 義昭 松澤 正	南山堂 金原出版

【科目名】 理学療法評価各論Ⅱ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	旦 尚敏	時間数	30	回数	15	授業方法	実験・実習・実技
授業の概要、到達目標							
理学療法に関連した検査・測定を中心に、各種疾患に伴う障害の評価が行えるように学習する。 ①脳神経障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる ②不随意運動の程度と関連要因を把握する評価が実施できる ③高次脳機能障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる ④整形外科的検査法が実施できる ⑤協調運動障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる ⑥バランス機能障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる ⑦関節機能障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
回数	講義内容						備考
1	脳神経の診かた I						
2	脳神経の診かた II						
3	脳神経の診かた III						
4	脳神経の診かた IV						
5	不随意運動の診かた						
6	高次脳機能障害の診かた I						
7	高次脳機能障害の診かた II						
8	整形外科的検査法 I						
9	整形外科的検査法 II						
10	協調性の診かた I						
11	協調性の診かた II						
12	バランス機能の診かた I						
13	バランス機能の診かた II						
14	関節の診かた I						
15	整形外科的検査法Ⅲ						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が6割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版 理学療法テキスト理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ 15 レクチャーシリーズ				田崎 義昭 著 石川 朗 総編集		南山堂 中山書店	

【科目名】理学療法評価演習						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	小林功	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
各種障害に対する理学療法評価の知識・技術の統合が図れるように、医用画像の評価を含めて総合的に学習する。 ①骨関節障害にかかる基本的な理学療法評価が実施できる ②脳障害にかかる基本的な理学療法評価が実施できる ③神経・筋障害にかかる基本的な理学療法評価が実施できる ④脊髄障害にかかる基本的な理学療法評価が実施できる ⑤内部障害にかかる基本的な理学療法評価が実施できる ⑥医用画像の評価について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	脊髄損傷症例に対する ASIA						
2	脳卒中片麻痺症例に対するSIAS						
3	腰椎椎間板症例に対する神経学的検査						
4	変形性股関節症症例に対する形態測定・関節可動域測定・徒手筋力測定						
5	変形性膝関節症例に対する整形外科的検査						
6	変形性膝関節症症例に対する疼痛評価						
7	パーキンソン病症例に対する Functional Balance Scale						
8	高齢者に対する Mini mental State Examination						
9	脳卒中片麻痺症例に対する Functional Movements scale						
10	脳卒中片麻痺症例に対する立ち上がり動作練習						
11	肩関節周囲炎症例に対する関節可動域運動						
12	脳卒中片麻痺症例に対する画像評価と離床訓練						
13	人工股関節全置換術術後症例に対する基本動作練習						
14	膝蓋骨骨折症例に対する超音波療法・大腿骨顆上骨折症例に対する部分荷重練習						
15	無気肺症例に対する画像評価と排痰手技						
【成績評価方法】							
<内容>①出席点 <基準>素点が6割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
配布資料							

【科目名】 動作分析学Ⅰ						令和2年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	1
担当	赤松 眞吾	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
基本的動作能力を適切に捉えるために、目視による観察と基本的動作・応用的動作の画像評価、及び動作解析機器のデータを基にした分析について学び、動作の観察・記録・分析の方法を学習する。							
①基本的動作の分析方法について説明できる ②健常な基本的動作を観察して記録できる							
回数	講義内容						備考
1	レポートの書き方(序論—本論—結論)						
2	重心・床反力・関節角度・関節モーメント						
3	運動連鎖						
4	立ち上がり動作						
5	歩行動作						
6	異常歩行動作						
7	寝返り動作の理解、起き上がり動作						
8	階段昇降動作						
9	変形性股関節症 異常歩行動作						
10	変形性股関節症 異常歩行動作						
11	変形性膝関節症 異常歩行動作						
12	変形性膝関節症 異常歩行動作						
13	脳卒中片麻痺 異常歩行動作						
14	脳卒中片麻痺 異常歩行動作						
15	脳卒中片麻痺 異常歩行動作						

【成績評価方法】
<内容>①筆記試験
<基準>素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】		
書名	著者名	発行所
姿勢・動作・歩行分析（PT・OT ビジュアルテキスト）	臨床歩行分析 研究会 監 畠中泰彦 編	羊土社

【科目名】 動作分析学Ⅱ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	小林 功	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
動作障害を評価するうえで重要な位置を占める運動・動作分析について、目視による観察・3次元動作解析・表面筋電図等の動作解析にかかる画像または動画を使い、多角的に動作を分析できるよう学習する。							
①動作解析機器の使い方について説明できる							
②疾患特異的な基本的動作の異常を観察して記録できる							
回数	講義内容						備考
1	表面筋電図で計測できるもの						
2	Image J で計測できるもの						
3	3 次元動作解析機で計測できるもの						
4	3 次元動作解析機で計測できるもの						
5	股関節疾患						
6	股関節疾患						
7	膝関節疾患						
8	膝関節疾患						
9	足関節疾患						
10	足関節疾患						
11	正常歩行						
12	正常歩行						
13	自由課題						
14	自由課題						
15	自習課題・発表会						
【成績評価方法】							
<内容>①平常点							
<基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
講義資料							

【科目名】

基礎運動療法学(前期)

令和2年度

分野	専門	配当年次	1年	開講期間	通期	実務教員科目	○
						単位数	3
担当	新田 章貴	時間数	45/75	回数	19/38	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

運動療法の基盤的技術である触察技術について実技を通じて学習する。前期は骨の触察と下肢の筋について、後期は下肢・上肢筋・体幹の触察について学ぶ。

①骨のランドマークを触れることができる

②下肢筋について他筋と間違えることなく触れることができる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	総論	11	大腿部:大腿骨
2	上腕部:上腕骨	12	膝関節周辺 大腿骨 膝蓋骨
3	前腕部:尺骨・橈骨	13	膝関節周辺 脛骨 腓骨
4	胸部・肩甲帯周囲:肩甲骨	14	足関節および足部周辺
5	胸部・肩甲帯周囲:鎖骨・胸骨	15	足関節および足部周辺
6	手関節・手部:手根骨	16	下肢の骨触診復習
7	手関節・手部:手根骨	17	股関節に関わる筋
8	手関節・手部:中手骨・指骨	18	股関節に関わる筋
9	上肢の骨触診復習	19	膝関節に関わる筋
10	骨盤		

【成績評価方法】

<内容> ①筆記試験②実技試験

<基準> ①②合算したものを半期の素点とし、前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。評価は前後期の平均。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢・下肢体幹) 改訂第2版		Medical View

【科目名】

基礎運動療法学(後期)

令和2年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	1年	開講期間	通期	単位数	3
担当	新田 章貴	時間数	30/75	回数	19/38	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

運動療法の基盤的技術である触察技術について実技を通じて学習する。前期は骨の触察と下肢の筋について、後期は下肢・上肢筋・体幹の触察について学ぶ。

- ①上肢筋について他筋と間違えることなく触れることができる
②体幹の骨ランドマークを触れることができる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	足関節および足部に関わる筋	11	肘関節複合体に関連する靭帯
2	足関節および足部に関わる筋	12	手関節および手指に関わる筋
3	下肢の靭帯	13	手関節および手指に関わる筋
4	下肢の筋触診復習	14	中手指節関節に関連する靭帯
5	肩甲上腕関節に関わる筋	15	上肢の筋触診復習
6	肩甲胸郭関節に関わる筋	16	胸郭に関連する諸組織
7	肩甲胸郭関節に関わる筋	17	胸郭に関連する諸組織
8	肩関節複合体に関連する靭帯	18	脊柱に関連する諸組織
9	肘関節に関わる筋	19	脊柱に関連する諸組織
10	肘関節に関わる筋		

【成績評価方法】

<内容> ①筆記試験、②実技試験

<基準> ①②合算したものを半期の素点とし、前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。評価は前後期の平均。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢・下肢体幹) 改訂第2版	林 典雄	Medical View

【科目名】 運動療法学Ⅰ						令和2年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	Ⅰ年	開講期間	後期	単位数	Ⅰ
担当	赤松 眞吾	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
各種の障害に対して適切な運動療法が行えるよう、基礎的知識について学習する。 ①関節可動域制限に対する運動療法について説明できる ②筋力低下に対する運動療法について説明できる ③筋持久力低下に対する運動療法について説明できる ④全身持久力低下に対する運動療法について説明できる ⑤協調運動障害に対する運動療法について説明できる ⑥筋緊張異常に対する運動療法について説明できる ⑦治療体操について説明できる							
回数	講義内容						備考
Ⅰ	総論①						
2	総論②						
3	関節可動域運動①						
4	関節可動域運動②						
5	関節可動域運動③						
6	関節可動域運動④						
7	筋力増強運動・筋持久力運動①						
8	筋力増強運動・筋持久力運動②						
9	筋力増強運動・筋持久力運動③						
10	筋力増強運動・筋持久力運動④						
11	全身調整運動①						
12	全身調整運動②						
13	協調性運動①						
14	協調性運動②						
15	神経・筋再教育						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が6割以上で単位修得。							
【使用教科書】							
書名						著者名	発行所
標準理学療法学専門分野 運動療法学総論 第3版							医学書院

【科目名】

運動療法学Ⅱ

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	1 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	宮崎 尚也	時間数	60	回数	30	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

各種の障害に対して適切な運動療法が行えるよう、基礎的技術について学習する。

- ①関節可動域制限に対する運動療法を実施できる
- ②筋力低下に対する運動療法を実施できる
- ③筋持久力低下に対する運動療法を実施できる
- ④全身持久力低下に対する運動療法を実施できる
- ⑤協調運動障害に対する運動療法を実施できる
- ⑥筋緊張異常に対する運動療法を実施できる
- ⑦治療体操を指導することができる

回数	講義内容	備考
1・2	他動運動① 上肢関節	
3・4	他動運動② 下肢関節	
5・6	自動運動、自動介助運動	
7・8	副運動①	
9・10	副運動②、伸張運動①	
11・12	伸張運動②	
13・14	関節可動域運動① 上肢	
15・16	関節可動域運動② 下肢	
17・18	抵抗運動 上肢	
19・20	抵抗運動 下肢	
21・22	筋力増強運動	
23・24	協調性訓練	
25	筋持久力運動	
26	リラクセーション訓練	
27・28	治療体操	
29・30	全身調整訓練	

【成績評価方法】

<内容>①実技試験

<基準>素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
配布資料		

【科目名】

運動療法学Ⅲ

令和 2 年度

実務教員科目

○

分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	通期	単位数	1
担当	赤松 眞吾、他	時間数	30	回数	15	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

神経生理学を基礎とした技術及び、理学療法にかかる最新の治療手技について体系的に理解する。

- ①AKA について説明できる
- ②ボバース概念について説明できる
- ③PNF について説明できる
- ④SJF について説明できる
- ⑤足底板療法について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	AKA①	赤松
3・4	AKA②	赤松
5・6	AKA③	赤松
7・8 9・10	ボバース概念①	日浦
11・12 13・14	ボバース概念②	日浦
15・16 17・18	PNF①	吉田
19・20 21・22	PNF②	吉田
23・24	SJF①	姫野
25・26	SJF②	姫野
27・28	足底板療法①	渡辺
29・30	足底板療法②	渡辺
31・32 33・34	動作改善に向けた神経生理学のアプローチ①	山中
35・36 37・38	動作改善に向けた神経生理学のアプローチ②	山中

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験

<基準>素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】 物理療法学Ⅰ						令和２年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	Ⅰ年	開講期間	後期	単位数	Ⅰ
担当	中谷 秀美	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
適切な物理療法が行えるよう、温熱療法、電磁波療法、寒冷療法、マッサージ療法等について定義・目的・効果と適応・手技・リスク管理などを中心に学習する。							
①物理療法の種類を説明できる							
②物理療法（温熱療法、電磁波療法、寒冷療法、マッサージ療法）の適応と禁忌が説明できる							
③物理療法（温熱療法、電磁波療法、寒冷療法、マッサージ療法）に実施方法について説明できる							
④物理療法（温熱療法、電磁波療法、寒冷療法、マッサージ療法）が実施できる							
回数	講義内容						備考
Ⅰ	物理療法総論						
2	リスク管理						
3	温熱療法①、温熱療法とは						
4	温熱療法②、熱量、熱の分類						
5	温熱療法③、温熱による生体反応						
6	温熱療法④、ホットパック、パラフィン療法						
7	温熱療法⑤、ホットパック、パラフィン療法						
8	電磁波療法①、総論、赤外線						
9	電磁波療法②、超短波						
10	電磁波療法③、超短波療法、光線療法（紫外線・赤外線）、極超短波、紫外線						
11	レーザー						
12	実技②						
13	寒冷療法①						
14	寒冷療法②（コールドスプレー、極低温療法）、アイシングマッサージ実技						
15	マッサージ 総論、マッサージ 実技						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験②課題点③実技試験							
<基準>①②③を合算し、素点が６割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習				日高正巳・玉木 彰		中山書店	

【科目名】 物理療法学Ⅱ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	新田 章貴	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
適切な物理療法が行えるよう、水治療法、圧迫療法、牽引療法、超音波療法、電気療法等について定義・目的・効果と適応・手技・リスク管理などを中心に学習する。							
①物理療法の種類を説明できる							
②物理療法（水治療法、圧迫療法、牽引療法、超音波療法、電気療法）の適応と禁忌が説明できる							
③物理療法（水治療法、圧迫療法、牽引療法、超音波療法、電気療法）に実施方法について説明できる							
④物理療法（水治療法、圧迫療法、牽引療法、超音波療法、電気療法）が実施できる							
回数	講義内容						備考
1	物理療法総論、定義、目的、炎症・疼痛について						
2	水治療法① 物理的特性、生理学的作用、各種治療法						
3	水治療法② 水治療法実習（過流浴、交代浴）						
4	圧迫療法 実習						
5	圧迫療法① 効果、浮腫・DVTの病態、適応、禁忌						
6	圧迫療法② 治療技術（弾性包帯、マッサージなど）						
7	牽引療法 歴史、効果、種類、頸椎・腰椎牽引の設定、持続的他動運動（CPM）						
8	超音波療法・牽引療法 実習						
9	超音波療法・牽引療法 実習						
10	電気診断法① 強さ-時間曲線、電気診断法② 神経伝導速度						
11	電気療法① 電気生理学、低周波療法の効果 治療手順（その 1）						
12	電気療法① 電気生理学、低周波療法の効果 治療手順（その 2）						
13	電気療法② 各種電気療法（TENS、FESなど）、電気療法デモ						
14	電気療法③ 実習						
15	電気療法③ 実習						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験							
<基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
物理療法学 第 2 版				松澤 正		金原出版	

【科目名】 義肢学						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	桶田 勝文	時間数	45	回数	23	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
義肢に関する基礎的知識、適合判定、訓練について学習する。 ①義肢の種類を説明できる ②義肢の適合性の確認について説明できる ③義肢のアライメント調整ができる							
回数	講義内容						備考
1	切断患者に対するリハビリテーション、切断について、切断から生じる Impairment						
2	四肢切断者の状態、および管理方法について						
3	義足総論、下腿義足（ソケットと bench alignment）						
4	下腿義足（ソケットと bench alignment）、足継手						
5	下腿義足（static alignment, dynamic alignment）						
6	下腿義足（static alignment, dynamic alignment）						
7	大腿義足（ソケット）						
8	大腿義足（ソケット）、膝継手						
9	膝継手、大腿義足（bench alignment）						
10	大腿義足（static alignment）						
11	大腿義足（static alignment, dynamic alignment）						
12	大腿義足（dynamic alignment）						
13	大腿義足（dynamic alignment）						
14	股義足（ソケット、各 alignment）						
15	サイム義足、膝義足、足義足						
16	下肢切断患者における評価（検査・測定）						
17	下肢切断患者における評価（検査・測定）						
18	下肢切断における理学療法						
19	下肢切断における理学療法（模擬義足）						
20	下肢切断における理学療法（模擬義足）						
21 22 23	I 義手、①上肢の切断・各種義手、②体験義手装着訓練、③筋電義手 II 最新の知見を交えて、①義肢の作製、②模擬義足体験（スポーツ用義足）						

【成績評価方法】

<内容>①筆記試験
<基準>素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 義肢学	石川 朗	中山書店

【科目名】						令和 2 年度	
装具学						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	宮崎 尚也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
装具に関する基礎的知識、適合判定、訓練について学習する。 ①装具の種類を説明できる ②装具の適合性について説明できる ③福祉用具の適用について説明できる ④車椅子の調整ができる							
回数	講義内容						備考
1	総論						
2	装具の構成						
3	短下肢装具						
4	長下肢装具						
5	靴型装具						
6	下肢装具のチェックアウト						
7	下肢装具のチェックアウト<演習>						
8	体幹装具						
9	上肢装具						
10	自助具作成<演習>						
11	歩行補助具						
12	脳卒中片麻痺の装具						
13	整形外科疾患の装具						
14	関節リウマチの装具						
15	対麻痺・小児の装具						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
理学療法学テキスト 装具学				石川 朗		中山書店	

【科目名】 日常生活活動学総論						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	旦 尚敏	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
日常生活活動に関する適切な評価、及び指導の基本的事項について学習し、演習を通じて基本的動作訓練方法を学ぶ。 ①日常生活活動について説明できる ②日常生活活動の評価を実施できる ③基本的動作訓練が実施できる							
回数	講義内容						備考
1	ADL 総論・概念						
2	動作訓練 総論、動作訓練① 寝返り						
3	動作訓練②、起き上がり						
4	動作訓練③、座位～膝立ち～立ち上がり						
5	動作訓練④、移乗（ベッド～車椅子）						
6	動作訓練⑤、歩行介助 1						
7	動作訓練⑥、歩行介助 2						
8	動作訓練⑦、(①～⑦が終わっていれば総復習)						
9	杖・松葉杖、名称について、段差昇降、車椅子について、車椅子の名称（講義）						
10	杖・松葉杖 杖の合わせ方、段差昇降、（実技）						
11	ADL 評価（尺度、手順、方法など）						
12	ADL 評価（各評価表、FIM 課題提出）						
13	ADL 評価（テストの実際：FIM）						
14	ADL 評価（セルフケア動作について・動作分解）						
15	ADL 練習問題、ADL 評価演習						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験②実技試験 <基準>①②合算し、素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第 5 版 姿勢と動作 第 3 版				奈良 勲 齋藤宏		医学書院 メヂカルフレンド社	

【科目名】 日常生活活動学各論						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	石川定、和田善行	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
各種障害を有した対象者の日常生活活動を指導するための基本的事項を学習し、演習を通じて指導技能を学ぶ。 ①脳障害患者の日常生活活動を指導できる ②一側下肢障害患者の日常生活活動を指導できる ③脊髄障害患者の日常生活活動を指導できる ④呼吸器障害患者の日常生活活動を指導できる ⑤関節リウマチ患者の日常生活活動を指導できる							
回数	講義内容						備考
1	講義 理学療法の目標、ADL 向上のアプローチ、ADL の実用性、各疾患の ADL の特徴、ADL 訓練について						
2	脳卒中片麻痺の ADL (講義) 脳卒中患者のこれから、筋緊張異常によって生じる障害因子、脳卒中片麻痺患者の動画観察						
3	脳卒中片麻痺の ADL (演習)						
4	脳卒中片麻痺の ADL (演習)						
5	脳卒中片麻痺の ADL (演習)						
6	一側下肢障害の ADL (講義)						
7	一側下肢障害の ADL (演習)						
8	一側下肢障害の ADL (演習)						
9	脊髄損傷の ADL (講義)						
10	脊髄損傷の ADL (演習)						
11	脊髄損傷の ADL (演習)						
12	呼吸器疾患の ADL (講義)						
13	呼吸器疾患の ADL (演習)						
14	関節リウマチの ADL (講義)						
15	関節リウマチの ADL (演習)						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第 5 版 姿勢と動作 第 3 版				奈良 勲 齋藤宏		医学書院 メヂカルフレンド社	

【科目名】 理学療法治療各論Ⅰ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	小林功、土井敏之	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
脳障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。 ①脳障害にかかる理学療法について説明できる ②脳障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1	脳画像と各種経路の把握						小林
2	脳卒中の病態とリスク管理						小林
3	脳卒中の回復メカニズム						小林
4	意識障害						土井
5	運動麻痺・異常筋緊張						土井
6	感覚障害						土井
7	運動失調						土井
8	身体失認・病態失認・半側空間無視						土井
9	失行・注意遂行機能障害						土井
10	痛み・二次機能障害						小林
11	姿勢定位障害						小林
12	姿勢バランス						小林
13	起居動作障害						小林
14	歩行障害						小林
15	上肢機能障害						小林
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名					著者名	発行所	
標準理学療法学 神経理学療法学 第 2 版					吉尾 雅春	医学書院	

【科目名】 理学療法治療各論Ⅱ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	高島 正治	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
脳性小児麻痺をはじめ小児の障害に対する理学療法の知識・技術を体系的に学習する。 ①小児の障害にかかる理学療法について説明できる ②小児の障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1	人間発達（運動）、資料DVD視聴						
2	人間発達（姿勢反応、反射、摂食、知的、認知など）						
3	脳性麻痺の概略						
4	痙直型脳性麻痺①						
5	痙直型脳性麻痺②						
6	痙直型脳性麻痺③						
7	アテトーゼ型脳性麻痺						
8	重症心身障害						
9	小児整形疾患						
10	デュシャンヌ型筋ジストロフィー症						
11	ダウン症候群						
12	低出生体重児・ハイリスク児						
13	発達障害						
14	小児理学療法の特殊性						
15	資料映像視聴（脳性麻痺）、復習（試験対策）						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名					著者名	発行所	
イラストでわかる小児理学療法					上杉雅之監修	医歯薬出版	

【科目名】 理学療法治療各論Ⅲ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	新田 章貴	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
脊髄障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。 ①脊髄障害にかかる理学療法について説明できる ②脊髄障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1	脊髄損傷総論、専門用語、脊髄の解剖・機能生理①、疫学・脊柱・脊髄の解剖						
2	脊髄の解剖・機能生理②、血管系・伝導路						
3	脊髄の解剖・機能生理③、自律神経・反射、脊髄損傷発生分類と病態 発症機序、経過、完全・不全損傷						
4	脊髄不全損傷の特殊型①、脊髄半側損傷・後部損傷（グループワーク）						
5	脊髄不全損傷の特殊型②、中心性障害・前部障害、脊髄損傷障害学①、運動麻痺・感覚麻痺・自律神経障害、他						
6	脊髄損傷障害学②、排便障害・呼吸機能障害・性機能障害・二次障害						
7	理学的評価①、総論、高位診断（感覚検査）						
8	理学的評価②、高位診断（感覚・筋力検査）、脊髄損傷の理学的評価③、高位診断（反射）、評価分類、ADL						
9	治療総論、病期別アプローチ、全身調整訓練 血管運動神経再教育						
10	呼吸理学療法①、視診・触診・聴診、深呼吸訓練・呼吸介助・排痰介助、胸郭拡張訓練（肋骨の捻転）						
11	呼吸理学療法②、胸郭拡張訓練（体幹捻転・側屈・胸郭過伸展）、関節可動域訓練、拘縮好発肢位・注意点						
12	神経筋再教育、基本的動作訓練、CKC と OKC、座位・長座位保持、寝返り・起き上がり、Push Up 動作						
13	車椅子動作訓練、基本的な車椅子動作の考え方、除圧法・キャスター挙げ・段差昇降、座位別使用車椅子						
14	自己管理指導、Self-ROM など、リフティング、床上動作・起き上がり・長座位への起き上がり						
15	装具・自助具、機器入力インターフェース、社会復帰・スポーツ、社会資源・スポーツ活動 まとめ 他						

【成績評価方法】
＜内容＞①筆記試験
＜基準＞素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】		
書名	著者名	発行所
病気が見える vol.7 脳・神経 第2版		メディックメディア
理学療法ハンドブック 改訂第4版 第3巻	細田多穂	協同医書出版
理学療法ハンドブック 改訂第4版 第4巻	細田多穂	協同医書出版

【科目名】 理学療法治療各論Ⅳ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	田後 裕之他	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
骨・関節障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。							
①骨関節障害にかかる理学療法について説明できる							
②骨関節障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1・2	運動器系の疾患に対する理学療法（総論） 総論、疾患分類、機能障害、関節運動学、治療目的と治療技術、理学療法の流れ						
3・4	骨折に対する理学療法 ①概要-定義・分類・治療法等 ②骨折の理学療法評価						
5・6	骨折に対する理学療法 治療、各論、高齢者の骨折						
7・8	有痛性疾患に対する理学療法 痛みに対する概要、有痛性疾患とは、有痛性疾患に対する評価・治療						
9・10	末梢神経損傷に対する理学療法 理学療法の評価手順、各論、グループワーク（腓骨神経マヒを例にして）						
11・12	外傷性関節損傷の理学療法 各定義と原則、理学療法						
13・14	関節疾患の理学療法 RA・OA の理学療法						
15・16	環境整備、介助（実技含む） 起居、移乗動作、介助、杖に関する実習、講義、質疑応答						

【成績評価方法】		
<内容>①筆記試験		
<基準>素点が 6 割以上で単位修得		
【使用教科書】		
書名	著者名	発行所
標準整形外科学 第 14 版	鳥巢 岳彦	医学書院

【科目名】 理学療法治療各論Ⅴ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	赤松 眞吾	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
神経・筋障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。							
①神経・筋障害にかかる理学療法について説明できる							
②神経・筋障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1	総論① 理学療法とは？						
2	総論② 理学療法の歴史、医学的リハビリテーション、物理医学とリハ、疾病と障がい						
3	総論③ 脳障害について						
4	各論① パーキンソン病に対する PT①						
5	各論② パーキンソン病に対する PT②						
6	各論③ パーキンソン病に対する PT③						
7	各論④ パーキンソン病に対する PT④						
8	各論⑤ SCD に対する PT①						
9	各論⑥ MS に対する PT①、SCD に対する PT②						
10	各論⑦ MS に対する PT②、SCD に対する PT③						
11	各論⑧ ALS に対する PT①						
12	各論⑨ ALS に対する PT②						
13	各論⑨ 筋ジスに対する PT①						
14	各論⑩ 筋ジスに対する PT②						
15	各論⑪ グランバレー症候群に対する PT						
【成績評価方法】							
①筆記試験							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ				小森 哲夫 監		MEDICAL VIEW	

【科目名】 理学療法治療各論Ⅵ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専 門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	増田 崇・森井 裕太	時間数	45	回数	23	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
内部（呼吸・循環・代謝）障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。なお、呼吸理学療法領域では喀痰等の吸引方法について実技を通じて学ぶ。 ①内部障害にかかる理学療法について説明できる ②内部障害にかかる理学療法について実施できる ③喀痰等の吸引を実施できる							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	呼吸理学療法総論			16	循環器系および腎臓の構造と機能		
2	呼吸器系の解剖学・運動学			17	心電図・不整脈の診かた		
3	呼吸器系の生理学			18	運動耐容能とその評価		
4	呼吸不全の病態と呼吸器疾患			19	病態・検査と治療 虚血性心疾患・心不全		
5	呼吸理学療法のための評価(1) フィジカルアセスメント			20	糖尿病の病態・検査と治療		
6	呼吸理学療法のための評価(2)			21	糖尿病の合併症と治療 急性合併症、三大合併症と足病変		
7	呼吸理学療法基本手技(1)コンディショニング			22	心血管理学療法の実際		
8	呼吸理学療法基本手技(2)排痰法			23	糖尿病に対する理学療法の実際		
9	呼吸器理学療法基本手技(3)						
10	呼吸理学療法基本手技(4)運動療法						
11	酸素療法と呼吸理学療法						
12	人工呼吸療法と呼吸理学療法						
13	疾患別呼吸理学療法(1)慢性呼吸不全						
14	疾患別呼吸理学療法(2)急性呼吸不全						
15	吸引						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験							
<基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
15 レクチャーシリーズ 第 2 版 内部障害理学療法学 呼吸				石川朗ほか		中山書店	
15 レクチャーシリーズ 第 2 版 内部障害理学療法学 循環・代謝				石川朗ほか		中山書店	

【科目名】 理学療法治療各論Ⅶ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	旦 尚敏	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
スポーツ障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。 ①スポーツ障害にかかる理学療法について説明できる ②スポーツ障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1	スポーツ障害総論						
2	足関節外側側副靱帯損傷の病態と治療①						
3	足関節外側側副靱帯損傷の病態と治療②						
4	ACL損傷に対する理学療法①						
5	ATの立場から考えるスポーツ障害						
6	スポーツに特有な足部疾患とその対応①						
7	スポーツに特有な足部疾患とその対応②						
8	ランニング動作に関連した下腿・足部の障害①						
9	ランニング動作に関連した下腿・足部の障害②						
10	膝関節周囲のスポーツ障害①						
11	膝関節周囲のスポーツ障害②						
12	投球障害肩と理学療法Ⅰ						
13	投球障害肩と理学療法Ⅱ						
14	肘関節周囲のスポーツ障害						
15	肘関節周囲のスポーツ障害						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
資料配布							

【科目名】 理学療法治療各論Ⅷ						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	櫻井 公統	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
老年期障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。 ①老年期障害にかかる理学療法について説明できる ②老年期障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1・2	医療面接について/医療面接演習						
3・4	介護保険について						
5・6	高齢者の心理/身体的特性						
7・8	認知症高齢者の理解						
9・10・11	フィジカルアセスメント						
12	介護予防について						
13・14	住環境・住宅改修について						
15	介護予防演習						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
資料配布							

【科目名】 理学療法治療演習						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	小林 功	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
各種障害に対する理学療法の知識・技術の統合が図れるように総合的に学習する。 ①骨関節障害にかかる基本的な理学療法プログラムを立案できる ②脳障害にかかる基本的な理学療法プログラムを立案できる ③神経・筋障害にかかる基本的な理学療法プログラムを立案できる ④脊髄障害にかかる基本的な理学療法プログラムを立案できる ⑤内部障害にかかる基本的な理学療法プログラムを立案できる							
回数	講義内容						備考
1	変形性膝関節症						
2	変形性膝関節症(人工膝関節全置換術前後)						
3	変形性股関節症(人工股関節全置換術前後)						
4	大腿骨頸部骨折(人工骨頭置換術後)						
5	腰部脊柱管狭窄症(除圧固定術後)						
6	膝前十字靱帯損傷(再建術後)						
7	足関節捻挫						
8	脳梗塞(右半球・急性期)						
9	脳梗塞(左半球・回復期)						
10	脳出血(小脳・急性期)						
11	パーキンソン病						
12	多発性硬化症						
13	不全脊髄損傷						
14	慢性閉塞性肺疾患(COPD)						
15	急性心筋梗塞						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名					著者名	発行所	
PT 症例レポート赤ペン添削ビフォー&アフター					相澤純也	羊土社	

【科目名】 生活環境論						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	中谷 年成	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
障害者の生活環境におけるバリアを理解し、リハビリテーションの視点から評価・治療計画、住宅改造等を学習する。 ①バリアフリーの概念について説明できる ②バリアフリーに関係する法制度について説明できる ③福祉住環境について説明できる ④住宅改造について立案できる							
回数	講義内容						備考
1	ガイダンス・ユニバーサルデザインと生活環境						
2	住まいの安全・安心① 住生活空間のデザイン						
3	住まいの安全・安心② 住空間のデザイン						
4	住まいの安全・安心③ 都市空間のデザイン						
5	住まいの安全・安心④ 生活環境の改善にむけて						
6	情報・通信と生活						
7	色と身体機能の特性						
8	生活環境音と温熱環境について						
9	人体と生活環境の寸法特性						
10	生活行為と住環境① 食生活						
11	生活行為と住環境② 集住生活						
12	生活行為と住環境③ 睡眠・排泄・入浴						
13	福祉住環境コーディネート① 平面計画						
14	福祉住環境コーディネート② 内装計画						
15	福祉住環境コーディネート③ プレゼンテーション						
【成績評価方法】							
<内容>①筆記試験 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名					著者名	発行所	
講義資料							

【科目名】						令和 2 年度	
地域理学療法学						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	複数名	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
医学モデルから生活モデルへの転換を含めて、実生活の場で対象者支援を行うために必要な基礎知識を習得する。また、対象者の生活を基にした問題解決方法について理学療法士の視点から学習する。							
①地域理学療法における理学療法士の役割について説明できる							
②入所施設における理学療法について説明できる							
③通所施設における理学療法について説明できる							
④訪問における理学療法について説明できる							
⑤地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割について説明できる							
⑥地域における多職種連携について説明できる							
回数	講義内容						備考
1・2	地域理学療法概論						
3・4	人間関係（聞く技術・話す技術）・治療者の役割						
5・6	評価						
7・8	業務連携、その人の求めるリハビリテーションとは						
9・10	①ニードについて②摂食嚥下						
11・12	①訪問リハ、②デイケア						
13・14	環境改善						
15・16	退院前訪問、理学療法士に求められる能力、まとめ						
【成績評価方法】							
<内容>①レポート課題（講義欠席の場合は資料を確認してレポートの提出が可能である。ただし減点対象。）							
<基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
資料配布							

【科目名】 地域サービス技術論						令和 2 年度	
						実務教員科目	○
分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	複数講師	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
地域包括ケアシステムの展開から、理学療法の領域拡大を見据えて、介護予防や健康増進、さらには災害時支援、国際支援など、視野を広げた医療機関以外での理学療法士の活動について学習する。 ①健康増進における理学療法について説明できる ②災害時における理学療法士の役割について説明できる ③国際支援における理学療法士の役割について説明できる ④終末期医療における理学療法士の役割について説明できる ⑤産業理学療法における理学療法士の役割について説明できる ⑥学校保健および特別支援における理学療法士の役割について説明できる ⑦障害者スポーツ支援における理学療法士の役割について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	健康維持、増進における理学療法士の役割						富樫昌彦
2・3	災害時の理学療法						姫野吉徳
4・5	国際支援における理学療法						斎藤謙二
6・7・8	終末期医療(悪性腫瘍の理学療法を含む)における理学療法						小林功
9・10	産業理学療法						赤松眞吾
11	学校保健、特別支援における理学療法士の役割						福本貴彦
12・13	障がい者スポーツ支援における理学療法士の役割						片岡正教
14・15 16・17	ADL の捉え方①						山中善詞
18・19 20・21	ADL の捉え方②						山中善詞
22・23 24・25	足部の運動学と歩行分析、生活における歩行、足部の機能解剖と評価、歩行分析 足底板による歩行の変化						渡辺泰
26・27 28・29	SJF						姫野吉徳
30・31	言語聴覚概論、言語聴覚士が扱う障害、コミュニケーション障害者への対応 嚥下障害と食べ方の工夫について						鈴木昌仁
【成績評価方法】							
<内容>①出席点 <基準>素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名					著者名	発行所	
資料配布							

【科目名】

見学実習

令和 2 年度

【科目名】 見学実習						令和 2 年度	
						実務教員科目	
分野	専門	配当年次	1 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	複数教員	時間数	40 時間以上 時間外含め 45 時間以内			授業方法	実験・実習・実技
授業の概要、到達目標							
理学療法の全体像を把握し、専門領域への導入を助けるとともに、理学療法士として対象者への対応等について見学を実施する。特に本校では地域包括ケアシステムの理解を深めるための実習としても位置付けており、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習を通じて学習する。なお、受講にあたり臨床実習前の及び臨床実習後の評価を実施し、臨床的技能の到達状況を確認する。 ①清潔で適切な身だしなみ、ことば遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる ②共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築することができる ③自らが置かれた立場で、必要とされる要件を認識し、指導者の助言に対して適切に応答することができる ④医療職としての心得や職場内におけるルールを守ることができる ⑤守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる ⑥臨床実習施設が関わる地域包括ケアについて説明することができる							
回数	講義内容						
期間	令和 3 年 1 月 12 日～1 月 22 日 (実習時間 40 時間以上で、実習時間外学習時間を含み 45 時間以内)						
実習目的	見学実習は、病院・施設等の理学療法部門において、臨床指導者の指導を仰ぎながら、業務と役割を知り、また症例を通して、情報収集から理学療法プログラム実施計画の作成にいたる理学療法のプロセスについて理解することを主な目的とする。						
実習目標	見学実習では、病院・施設の見学を通して、地域社会や保健・医療・福祉分野における理学療法士の役割と責任を全体的に理解する。						

【成績評価方法】

<内容> ①CBT②実習出席率③成果表判定④提出物⑤学内報告会内容⑥報告会出席率

<基準> ①～⑥合算し、素点が 6 割以上で単位修得。なお、欠席日数が 5 日以上の場合は評定を受ける資格を失う。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
全ての科目の教科書および参考図書		

【科目名】

評価実習

令和 2 年度

【科目名】 評価実習						令和 2 年度	
						実務教員科目	
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	通期	単位数	5
担当	複数教員	時間数	200 時間以上 時間外含め 225 時間以内			授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

評価実習では、学内教育（基礎、専門基礎、専門）を基礎として、病院・施設の臨床指導者の指導・監督のもとで、多種多様な疾患や障害を有する対象者に対して、情報収集、検査・測定等を行って対象者の状態に関する評価を実施する。なお、受講にあたり臨床実習前の及び臨床実習後の評価を実施し、臨床的技能の到達状況を確認する。

- ①検査測定項目・情報収集項目の抽出・取捨選択の理由を説明できる
- ②検査測定結果の関連性について説明できる
- ③対象者が抱える課題を抽出し、その抽出理由について説明できる
- ④実施内容を記録に残すことができる
- ⑤カンファレンスでの症例提示内容について説明できる

回数	講義内容
期間	①評価実習Ⅰ 令和 2 年 7 月 13 日～7 月 31 日 (実習時間 80 時間以上で、実習時間外学習時間を含み 90 時間以内) ②評価実習Ⅱ 令和 2 年 1 月 25 日～2 月 19 日 (実習時間 120 時間以上で、実習時間外学習時間を含み 135 時間以内)
実習目的	①評価実習Ⅰ 対象者に対する検査測定技術の実践的能力を身につけること及び理学療法評価の流れを経験することを主たる目的とする。 ②評価実習Ⅱ 病院・施設等の理学療法部門において、臨床指導者の指導を仰ぎながら、症例を通して、情報収集から理学療法プログラム実施計画の作成にいたる理学療法評価についての実践的基礎能力を身につけることを主な目的とする。
実習目標	①評価実習Ⅰ 検査測定の専門知識および専門技術を整理する。学内で習得した検査・測定の知識や技術を臨床場面で実践体験する。理学療法に関わる検査・測定の適切性を高める。収集した情報および個々の検査結果をもとにして対象者の障害像を捉え、主要な問題を把握する。 ②評価実習Ⅱ 指導のもと、検査測定、治療・訓練の経験を通して、それらの目的や対象者の疾病と障害を理解することを目標としている。 また可能な限り同一の症例で(1)情報収集(2)面接(3)検査・測定(4)統合と解釈(5)問題点抽出(6)目標設定などを実践する。

【成績評価方法】

<内容>①CBT②実習出席率③成果表判定④提出物⑤学内報告会内容 <基準>Ⅰ期Ⅱ期それぞれで①～⑤を合算し、それぞれの素点を算出する。Ⅰ期Ⅱ期の素点を合算して 120 点以上であり、かつⅡ期の素点が 60 点以上であれば単位修得。なお、欠席日数が 5 日以上の場合は評定を受ける資格を失う。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
全ての科目の教科書および参考図書		

【科目名】

総合臨床実習

令和 2 年度

【科目名】 総合臨床実習						令和 2 年度	
						実務教員科目	
分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	通期	単位数	15
担当	全教員	時間数	600 時間以上 時間外含め 675 時間以内			授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

総合臨床実習では、学内教育（基礎、専門基礎、専門）を基礎として、病院・施設の臨床指導者の指導・監督のもとで、多種多様な疾患や障害を有する対象者に対して、障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定について学習する。なお、受講にあたり臨床実習前の及び臨床実習後の評価を実施し、臨床的技能の到達状況を確認する。

- ①対象者の治療目標を設定し、その設定根拠について説明できる
- ②理学療法プログラムを選択し、その根拠について説明できる
- ③理学療法の即時効果を確認し、その内容について説明できる
- ④実施内容を記録に残すことができる
- ⑤カンファレンスでの症例提示内容について説明できる

回数	講義内容
期間	①総合臨床実習Ⅰ期 令和 2 年 4 月 6 日～6 月 5 日 (実習時間 320 時間以上で、実習時間外学習時間を含み 356 時間以内:前後評価 4 時間) ②総合臨床実習Ⅲ期 令和 2 年 8 月 24 日～10 月 16 日 (実習時間 280 時間以上で、実習時間外学習時間を含み 311 時間以内:前後評価 4 時間)
実習目的	総合臨床実習は、理学療法教育の最終段階として位置するものであり、理学療法業務の総合的な臨床学習を行うことを通して、学内外で習得した知識、技術を応用し実践することを主な目的とする。またリハビリテーションチームの一員として、理学療法士としての役割を自覚し、組織管理、運営機構について認識するとともに、医療専門職としての責任ある態度、行動がとれるようになることを目的とする。
実習目標	I. 基礎的態度 (1) 医療専門職従事者としての人格・知識・技術の向上するように、常に努力する。 (2) 報告・連絡・相談の実践、課題提出の厳守に努める。 II. 評価 (1) 各疾患(障害)別の評価過程が実践できること。 III. 理学療法の治療計画 (1) 予後予測をし、問題点や目標に対応した治療プログラムが設定できること。 (2) 治療目的に対して有効な治療の選択(手段、順序、時間、回数など)ができ、理論的裏付けができること。 IV. 理学療法の実施と再評価 (1) 立案したプログラムに沿って、治療が実施できる (2) 治療経過による変化が認識できること。 (3) 再評価を実施し、治療効果の判定、治療目標、治療プログラム等の再検討や修正ができること。 ※Ⅰ期はⅠ～Ⅳ(1)の範囲、Ⅲ期はⅠ～Ⅳ(3)の範囲が目標となる。

【成績評価方法】

<内容>①CBT②OSCE③実習出席率④成果表判定⑤提出物⑥学内報告会内容

<基準>Ⅰ期Ⅲ期それぞれで①～⑥を合算し、それぞれの素点を算出する。Ⅰ期Ⅲ期の素点を合算して 120 点以上であり、かつⅢ期の素点が 60 点以上であれば単位修得。なお、欠席日数が 5 日以上の場合は評定を受ける資格を失う。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
全ての科目の教科書および参考図書		

【科目名】 卒業課題						令和 2 年度	
						実務教員科目	
分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	複数教員	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
学内の履修の総括として、理学療法士に必要となる専門基礎的知識及び専門的知識を、国家試験出題基準に則り体系立てて学習する。 ①学内履修の総括として理学療法にかかる専門基礎的知識について説明できる ②学内履修の総括として理学療法にかかる専門的知識について説明できる							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1・2	呼吸器について、解剖・生理・運動・病理			21	人間発達学・小児科学		
3・4	泌尿器について、解剖・生理・運動・病理			22	臨床心理学		
5・6	循環器について、解剖・生理・運動・病理			23・24	脳卒中		
7・8	消化器について、解剖・生理・運動・病理			25	装具学		
9・10	内分泌について、解剖・生理・運動・病理			26・27	内科学 B(呼吸)		
11・12	免疫について、解剖・生理・運動・病理			28・29	整形外科学		
13	物理療法学			30・31	神経筋疾患		
14	精神医学			32	評価学①		
15	物理療法学			33	評価学②		
16	内科学 A(代謝)			34・35	呼吸器理学療法		
17・18	義肢学			36・37	整形外科学		
19・20	循環器理学療法			38・39	脊髄損傷		
【成績評価方法】							
<内容> ①筆記試験(2回実施) <基準> 第 1 及び第 2 回試験それぞれにおいて、専門・共通ともに 50 点以上で、かつ合計 120 点以上のとき単位修得。 第 1 回試験に不合格者は、第 2 回試験で専門・共通ともに 60 点以上で、かつ合計 130 点以上のとき単位修得。							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
資料配布							

令和元年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：平成 31 年 4 月 1 日

至：令和 2 年 3 月 31 日

評価基準日 令和 2 年 4 月 1 日

学校法人栗岡学園

奈良リハビリテーション専門学校

学校関係者評価 評価委員

(敬称略 50 音順)

委員長 川口 正一郎

委員 大原 敏敬

委員 川原 勲

委員 酒井 真紀

委員 谷川 優香

委員 前原 園代

委員 宮野 博

評価項目の達成および取組状況

1 教育

2 施設・設備

3 学生サービス

4 教育面などでの特筆すべき取り組み

自己評価回答責任者

副校長 太田 むつ子

学科長 赤松 眞吾

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	当校の教育目標である「向上心をもって取り組む」「感受性を養う」点に関して、学内での教科や行事、臨床実習を通じて人間性豊かな人材を育成できるよう取り組んでいる。 また適切な治療技術を養うべく1年次より技術・手技の研鑽に努めている。	実技講義においては複数教員による対応によって、きめ細やかな指導ができています。また卒後に求められる一定レベルの技術や知識を兼ね備えられるよう、各教科において教授内容をアップデートしている。 ただ医療従事者としての資質を養う点に於いては、多様化する学生像を反映して難しい部分もある。	5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 ← つ → 分 う 分 4	医療従事者として相応しい言動や知識・技術を備えられるよう、学校全体としての包括的な取り組みを進めていく。 また多様化する業務分野を踏まえて、学内で必要な知識・技術の刷新を図る。	・ 実技講義は現在のカリキュラムでも学生は少ないと感じているので、教員を複数配置することで授業の満足度は増していると思います。(谷川委員) ・ 専門職として大切な治療技術の習得、医療職として必要な適性向上を柱とした教育を行っている。(河原委員) ・ 多様化が尊重される時代だからますます多様化してくると思います。(宮野委員)
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	指定規則の改定に基づいて、より現場の現況に基づいたカリキュラムを作成している。	訪問リハや海外協力、災害時等を含めた多岐にわたる分野において、経験豊富な講師による講義を行う。ただ時間量としては充分なものではない。	4	理学療法士としての職域は拡大傾向であるが、実際新卒者は病院勤務が大半であり、様々な分野に関われるよう、多角的な視野をもてる学生を養成する必要がある。	・ 卒後の方向性についてOB等から話を聴ける機会があると、よりモチベーション向上に繋がると思います。(谷川委員) ・ OB会や実習指導者会議など活用して現場のニーズに応えられる人材を育成すること。(河原委員)
3. 授業科目の学年進捗や時間配分は適切ですか	指定規則の改定に伴い、改めて講義科目の配置や時間配分については、現状に即した適正な対応を進めている。	講義や実習だけでなく、各学年次において理解が深まるよう、適時補習等の時間外活動に取り組んでいる。全体的に講義に係る時間が多いため、どのようにバランスを考えていくかが課題である。	4	適切な時期に適切な内容の取り組みを促していく必要があり、ただ時間を多く取るだけではなく、就学時間との兼ね合いも含めて検討していく。	・ 適切である。(河原委員)
4. シラバス(授業要項)を作成していますか(内容は適切ですか)	シラバスを作成している。内容も期末や年度末に更新している。	学期開始以前に、シラバス担当教員が作成しシラバスの内容を教員全体で検討している。	4	カリキュラム全体とシラバスの整合性についても検証する必要があるが、教員担当の授業だけでなく、学年全体、教科全体、そして学校全体を俯瞰して授業を構想できるような場を持つことが大切である。そのためには、必要な教職員の確保や、教員室で議論できるような雰囲気、場所の確保が求められる。	・ 適切である。(河原委員) ・ 定例の会議を設定することは困難ですか？(宮野委員)

5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	今年度は、指定規則の変更に伴い見直す機会があった。見直しの際は、学年担任、教務主任、学科長を含めて教員全員で検討している。	見直しの際は、理学療法コアカリキュラム内容に準じているか、また学校の独自性を考慮し、当校の目指す学生像に近づけることを考えている。 具体的に当校の指針に沿った学生を教育できているかの検証はできていない。	3	カリキュラム内外の全体を通して、プロフェッショナリズムを学ぶ機会を検討する必要がある。 管理職も含めた全ての教職員がその必要性を理解し、学生や実習の実態等と指導内容を照らし合わせ、学年単位、教科単位に陥りがちな学校運営ではなく、学校単位で教育活動をまとめることができるようなマネジメントに係る体制を整えていくことが必要である。	・検証については何らかの形で取り組んでみてはどうか。(酒井委員) ・適切ではあるが、スピードを持って見直しを行うためにはどのような方法が良いかを再考する必要がある。(河原委員) ・委員会の設置を推奨いたします。(宮野委員)
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	基本的な基準は「臨床で活用できる」また「国家試験等に利用可能」であり、学内外で有効活用できる教材を各教員で検討・判断して購入している。外来講師に関しても学校側の考えが反映できるように促している。	講義内では各教員・講師がテキストや教材の活用を前提として教授できている。また実習中における知識の確認や国家試験対策に於いても活用している。図書の選考については適宜対応している。	4	いくつかのテキストや副教材については有効活用できていないものがあり、この点については学生への理解を促すとともに、適正な使用ができるよう、講義資料を含めた見直しが必要である。	・テキストや教材については購入したのにほとんど使わなかったということが生じないよう、活用方法のアドバイスも必要。(酒井委員) ・他校の教材や教科書を参考にしては？(谷川委員) ・有効活用できていない教材を活用できるように教育する必要がある。(河原委員)
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	開講時にはシラバス等を通じて教育目標や評価方法を明示し、この上で学科試験を実施し評価を下している。臨床実習に於いても各実習における到達目標に基づいて、実習前後の試験や成果点を通じて判定する。	基本的には講義形式に応じた学科試験を実施し、教育目標を適切に反映できているかを判断している。実習に関しては前後の CBT や OSCE、実習成果を通して判定を行っている。	4	教育目標は各教科において学生が到達し得るものであり、適正に判定されているか、客観的評価を含めて継続的な検討を行っている。 指定規則の改定に伴って実習判定基準も変更されており、今後はこの内容に関しての検討も必要である。	・適切である。(河原委員)
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	内部教員を中心として各科目における教授方法を臨機応変に修正しつつ対応している。教授学科の内容を踏まえて、より効率的かつ効果のあるものを吟味している。	教科書ベースに傾倒することなく、各教科での工夫を凝らした教授内容により、一定の理解が得られる努力をしている。また講義形式も一方的でなく、双方向型の内容も含めて対応している。	4	学生の理解度は各自で個人差があり、全てのニーズに対応することが難しいケースもある。よって学生の特性に合わせたより個別的な対応を念頭に検討を続けている。	・アンケートや確認テストを定期的に行い、学生の理解度を把握する必要があると思います。(谷川委員) ・落ちこぼれないよう小テストなどで理解度を確認して個別指導する必要がある(河原委員) ・双方向型または GW 型での授業と ICT の絡みが必要かも？(宮野委員)

9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	入学前より就学前ワークブックを実施させ、学力の底上げを図るとともに時間外学習の時間を最大限活用しながら個別対応を積極的に実施している。	特に各学科試験や国家試験前の集中的な個別対応を行うことで、一定の学力向上に寄与できている。効果的な教授内容の検討やマンパワー不足に関しては課題である。	4	時間的制限やマンパワー不足が課題である。各学年における短期的な対策ではなく、学科全体での一貫性をもった効果的な対策を検討する必要がある。	・学力不足の学生を早期にピックアップして個別な関わりを持つための情報収集も必要。(酒井委員) ・個別対応に加えて、グループ学習を行うことで学生同士が教え合うことができ、マンパワー不足が解消されると思います。(谷川委員) ・入学前の基礎学力向上は一定の効果がみられるので継続の必要性を感じる。(河原委員) ・大学生チューターをどうにゆうしては？(宮野委員)
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	科目内での教授や学内生活、ビジネスマナー講座等を通じて、医療従事者としてふさわしい立ち振る舞いがとれるよう、学内外において教職員が指導を実施している。	学内外の生活や実習等における指導を通じて、個々の言動や立ち振る舞いにも変化が見られ、成長を感じることができる。しかしながらその変化が乏しいケースも散見され、より個別性の高い対応が必要と考える。	3	受講の姿勢や種々の対応に関しては、学内においても重点的な課題の一つである、より徹底した指導を進めていく。また実習中の態度や SNS、携帯電話等の適正な使用についても継続的な対応が必要である。	・適切である。全学生禁煙が望ましい。(河原委員) ・指導方法の柔軟性と根気強さが問われると思います。(宮野委員)
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	教員が各個人で学会や研修会を通じて研究発表や自己研鑽を続けている。また認定理学療法士（学校教育）が 3 名在籍しており、より良い教育を提供できるよう努力している。	現状としてはより効果的な教育方法や、教授内容の修正・改善に関する検討を十分な時間をもって実施できていない。	3	継続的な教授方法やスキルの向上は教員全体の課題としている。またマネジメントの観点からも学生管理に関する知識や方略の研鑽が必要であると考ええる。	・より一層教員の努力が必要と思われる。(河原委員)
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	各講義終了後には授業アンケートを実施し、担当教員へのフィードバックを行うとともに次回への検討材料としている。また最終学年終了時には学校生活全般へのアンケートを実施し、学校運営に役立てている。	アンケートはあくまで学生の主観的な観点による部分が大きい為、全てを改善できる訳ではないが、提示された結果に基づいて適切な修正ができるよう努めている。	3	具体的かつ各学生が実情を提示できるようなアンケートの内容や実施方法を検討していく必要がある。また教員が自身の教授内容について積極的に振り返り、効果的な授業展開を検討するように進めることが重要である。	・教員や外部講師へアンケート内容を開示していき、より密なフィードバックを行うことで教育内容の改善に反映できる。(谷川委員) ・先生に対する感謝の言葉（サンキューレター）があつてよいと思います。(宮野委員)

2 施設・設備

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	学生人数に対して教室や治療実習室、機能回復訓練室など適正な教室数を確保している。また治療用ベッド等、学内講義に於いて必要な物品を整理、利用できるよう適宜調整している。	特別な自習室を設けておらず、時期によっては十分な勉強環境の提供が難しくなることがある。 また備品によっては経年劣化を呈するものもあり、随時点検と補修が必要である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 4	部屋の補修箇所や物品の定期的な点検・補修を行い、学内講義に支障を来さないよう対策が必要である。	・適切である。(河原委員)
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか(有効に活用されていますか)	図書室に於いては必要な図書を随時追加しており、また雑誌類についても定期的に検討をしながら学内教育に耐え得る設備を提供できている。また学生の要望に応じた活用ができるようにしている。	蔵書数としては図書・雑誌を含めて充分量であり、かつ活用できる環境を整えている。 ただし図書によっては教務室預かりとなっているものが散見され、整理が必要である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 4	学生の教育に有益な図書に関しては、必要に応じて追加できるように継続して管理していく。また最新の図書にあっても学生自身が閲覧しやすい環境作りを進める。	・文献検索しやすいようにパソコン等ネット環境を揃えると学生が利用しやすくなる。(谷川委員) 適切である。(河原委員)
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	各部屋の数・広さに関しては現状、大きな問題は見当たらない。また各部屋に附帯している備品に関しても、その数と状態を定期的に点検している。	指定規則の改定に伴い、必要かつ最新の物品を随時導入している。 特によく使用する備品(骨模型など)に関しては、経年劣化が進んでいるものがある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 5	学内備品の管理状態を確認し、必要に応じて修繕や導入を継続的に実施していく。	・経年劣化しているものは買い替えなど考慮すること。(河原委員)
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか(有効に活用していますか)	特に多用するPC周辺機器のアップデートや学生向けのインターネット使用環境の改善に努めている。 また図書管理用PCも最新のモデルへ変更し、学生が使用しやすい図書環境の構築を進めている。	タブレット端末(iPad)を導入し、ICT教育による双方向型の学習を推進している。また歩行アシスト機能等を搭載した最新のロボティクスリハビリテーションを導入している。これらを2020年4月より開始する予定である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 4	ICT教育の具体的な方略に関しては今後の大きな課題である。 専任教員を中心に積極的に学内講義に導入し、より学習効果を高められるような取り組みが必要である。	・非常に良い取組だと感じる。具体的にタブレット端末等をどのように活用していくのかを知りたい。(大原委員) ・特にリハビリ機器の導入により学生の知見が広がると考えられる。(河原委員) ・更なる発展を期待いたします。(宮野委員)

5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	法人で共通の学生寮を保有しているが、遠方からの入学者はさらに近くのワンルームマンションを選ぶ傾向にある。	法人の学生寮は希望者が多く有効に活用されている。本校の近くに学生寮があれば活用できると思われるが、距離があるため活用できていない。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 4	学生が快適で安心安全に学生生活を送れるように、今後も学校として近隣の賃貸マンション情報等の収集に努める。	・適切である。（河原委員）
6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	学内に体育館は保有しないが、近隣にグラウンドを保有している。体育の授業では関連校の体育館を利用している。	グラウンドについては使用頻度が低いが、地域貢献の一環として地元の老人会イベントやスポーツ活動に有効に利用してもらっている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 4	関連校で共有している体育館の利用について、夏季期間は館内温度が非常に高くなり、熱中症になることが懸念されるため、空調の改善を検討する。	・関連校で所有している施設を利用しており問題ない。（河原委員）

3 学生サービス

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	原則 2 名によるクラス担任制をとり、学生の状態に応じて臨機応変に対応している。問題が生じた場合は他教員も含め、ご家族も含めた包括的な取り組みが行えるようにしている。	多くのケースにおいて担任の適正な対応によって問題には対応できている。困難なケースに関しては原因となる要因が多岐にわたることから、画一的な対応では難しく、難渋することもある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 4	学生の心理状態や機微を察し、適切なタイミングや内容を伴った介入は、教員にとって必要な資質であり、またスキルの一つである。学校全体で対応していけるよう、継続的な取り組みを進めていく。	・定期的に個別で面談等を行っていく事で学生の不安解消や問題点を見出すことができる。（谷川委員） ・適切である。（河原委員） ・先の見えにくい不安定な時代にあってご指摘の通り教員個人のスキルも問われます。（宮野委員）
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	専門的なものでなければその都度、担任を中心に対応している。学生が希望すれば、臨床心理士によるカウンセリングを随時実施している。カウンセリングについて、学生が学内で受けることは可能であるが、学外での環境整備についてはできていない。	学内では教職員が学生にとって相談しやすい配慮や環境作りを行っている。また臨床心理士によるカウンセリングもプライバシーを遵守しながら、定期的に実施できている。学生が気軽に学校・教員を介さずカウンセリングを受ける環境（人的・場所）が乏しい。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 4	入学する学生の多様化に伴い、学力以外での心理的な問題が表面化するケースがみられる。担任だけでなく、学校全体でサポートできる環境を構築できるように努めていく。カウンセリングについて、学生の個人情報確保しながらもより利用しやすい環境を整備する。そのため、学園全体として臨床心理士とともにシ	・学外でのカウンセリングを受けられる環境とは具体的にどのようなことを考えているのか。（大原委員） ・学外カウンセリングについては、必要時に紹介できるように外部カウンセラーとの提携があれば心強いと思う。（酒井委員）

					システム構築を目指す。特に学外でカウンセリングを受けられる場所が必要である。	・適切である。(河原委員) ・本校でも学外で受けられる場所を確保しています。是非実現してください。(宮野委員)	
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	学内ラウンジが休憩スペースに該当する。その他食事や学生同士の交流場所として活用している。	ラウンジスペースでは他学年も含めた交流が可能であり、比較的小規模ではあるものの当校の特色の一つである。ただ休憩場所の少なさからか、他の場所においてもラウンジと同様の使用がされているケースも見られる。	5 十 分	4 ふ ← つ う 3	3 不 → 十 分	学生にとって使用しやすい休憩や生活環境の見直しに加えて学内における教室使用ルールの遵守や理解を深めていくよう促す必要がある。	・コロナ対策も踏まえてゆとりある休憩所が設けられると良いと思う。(酒井委員)
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	売店は設置されていない。 食事は主に学生ラウンジと教室を利用している。ラウンジには冷蔵庫やレンジ、キッチン等があり、学生が随時使用できるようにしている。	近隣にも食事購入できる施設（コンビニやスーパー）があり、現状では大きな問題なく過ごしている。 食堂や売店がないため、何か必要なものがあれば学外に出掛ける必要がある。	5 十 分	4 ふ ← つ う 4	3 不 → 十 分	他教室や場所における飲食が行われている場合もあり、適切なアナウンスの徹底と使用状況の点検及び管理が必要である。	・近隣トラブル防止のために売店もしくはお弁当販売も検討しても良いかもしれません。(谷川委員) ・学内に売店はないが、近隣にコンビニやスーパーがあり問題はない。(河原委員)
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	留年生に対しては特別学費支援制度を学園として導入しており、継続的な学習ができるような経済面でのサポートを実施している。 学校独自の特待生制度は現状、設けていない。	特別学費支援制度に関しては一部のケースを除いて多くの留年生が利用している。また制度利用によって学習に集中できる環境が整ってはいるが、学習効果という観点からは継続的な見直しが必要である。	5 十 分	4 ふ ← つ う 3	3 不 → 十 分	学費支援制度は当学校における有益なサポートツールの一つであると考え。加えて学生全体に対する意欲向上を考慮し、今後は成績優秀者に対する特待生制度等の検討も続けていく。	・御校の現状や学生マーケットを考えると成績優秀者に対しては表彰に留め、留年生の対応の継続の方が望ましいのではない。(大原委員) ・今後検討する必要がある。(河原委員) ・留年生に対する手厚いサポートですが、留年させない仕組みも必要かと。(宮野委員)
6. その他	学生の交通手段として適応範囲を限定した上で、車での通学を許可している。 子育て支援として、こぐま園を利用できる。	育児をする必要がある学生に対して、勉学に集中できるよう、こぐま園への送迎の利便性を考慮して、車通学を許可している。	5 十 分	4 ふ ← つ う 4	3 不 → 十 分	学生の家庭環境により勉学に臨むことが困難になる場合がある。そのような様々な状況が増えてきているが、それに対応するため適宜規則を柔軟に運用している。	・入学生確保の観点から職業実践専門課程の認定を目指し、専門実践教育給付金を受けられるようにしてはいかがか。(大原委員)

4 教育面などでの特筆すべき取り組み(自由記入)

- ・タブレット端末を用いた ICT 教育やロボティクスリハビリテーションの講義に関しては、他をみてもまだ類を見ないものであり、当校における教育の特徴的な部分でありかつ強みである。これらを用いて学習効果を高めていくには様々な取り組みを介した具体的な方略が重要であり、学校全体として取り組んでいく課題である。
- ・指定規則の改定に伴い、学内での備品を整理した上で最新機器の導入を進めている。超音波機器（エコー）や吸引用機器等の導入により、リアルタイムの臨床現場をよりイメージした学習環境の提供が可能となり、積極的に講義・実習に導入を進めるものである。
- ・臨床実習においては CBT や OSCE、報告会などの結果を総合的にまとめて判定するものとなっている。また実習中には当校独自の症例ポートフォリオを用いて学生の思考過程を可視化できるように工夫し、卒業に必要な知識や技術を全体的に学習できるように配慮している。

学校関係者コメント（自由記入）

- ・教育面で様々な取り組みをされておられます。今後より良い教育環境を整えていくことと、質の高い教育体制の充実を願います。（川口委員長）
- ・入学生の気質の変化や学力差の拡大、精神面での対応など個別性が教育のうえで対応が求められていると思われる。それに対してタブレット端末の活用などはとても先端的取り組みとして評価できる。またロボティクスリハビリテーションも今後拡大することが予想される素晴らしい取組である。これをいかに地元の入学予備軍や関係者に認知できるかも併せて必要かと思われる。（大原委員）
- ・ICT 教育やロボティクスリハビリテーション講義、最近機器の導入は PR にもなるだろうし、ホームページ等で最新情報を常に更新し、魅力を伝えられたら良いと思います。（酒井委員）
- ・ICT 教育はこれから徐々に拡大してくることが予想されますのでいち早く講義等に取り入れることはひとつの特長でもあり、他校と比べても強みになると思います。現在はマンパワーで稼働しているので、今後より効率的な授業の進め方、学生との時間共有が今後の課題になるのではと思います。（谷川委員）
- ・奈良リハは ICT、ロボットリハビリ教育を行っており、他校では類を見ないものである。卒業後に就職する病院では当然のように使用している可能性があり、徒手療法に加えてロボットリハビリテーションの分野においての知識・技術があるということは入職後の強みにもなると考えられる。また学習環境の充足に伴い、きめ細かい実習が行われることは実践で役立つ専門職育成の繋がると考えられる。（河原委員）
- ・タブレットを用いた学習や、e ポートフォリオの先駆的な取組みは今後の学校運営には重大な要点の一つだと思います。貴校の充実した教育内容を特に高校生に対するアウトプットする仕組みが必要なのは？（宮野委員）
- ・素晴らしい取り組みです。社会の先端を行く医療従事者としての知識や分析力を身につけていく教育と人間性を磨き、寄り添う PT を育てて欲しいです。（前原委員）

以上